

《松江キャンパス》

平成 28 年度 公立大学法人島根県立大学
 地域連携推進センター松江キャンパス運営会議 名簿

(任期：平成 28.4.1~平成 29.3.31)

職 名	氏 名	備 考
教 授	山下 由紀恵	<ul style="list-style-type: none"> ・しまね地域共生センター長 ・地域連携推進センター副センター長 ・地域連携推進委員会委員長
准教授	籠橋 有紀子	地域連携推進委員会委員 (研究連携協議会・COC 研究紀要発行を含む地域志向研究の推進)
准教授	飯塚 由美	地域連携推進委員会委員 (公開講座・学生ボランティアの推進)
講師	渡部 周子	地域連携推進委員会委員 (教育連携協議会・連携協定機関を含む教育機関、並びにその他高大連携及び地域志向教育の推進)
地域連携課長	的場 好信	事務局委員
主事	錦織 彩	事務局委員
嘱託員	藤原 香緒里	事務局委員
ソーシャルラーニング・ コーディネーター	赤名 文	事務局委員 (学生ボランティア推進担当)
コーディネーター	小倉 佳代子	しまね地域共生センター コーディネーター
嘱託員	鳴尾 朋子	しまね地域共生センター事務局委員
嘱託員	藤本 茉穂	しまね地域共生センター事務局委員

平成28年度 松江キャンパスの地域連携活動概要

平成28年度の松江キャンパス地域連携推進センターでは、(1) 地域自治体との共同研究を含む地域志向研究事業、(2) 新たな「社会人の学び」体制構築に向けた「履修証明プログラム」開設および公開講座推進、(3) 学生地域ボランティア活動を含む地域教育連携事業の3つを軸に活動した。正課授業・卒業プロジェクト・サークル活動を通して、あるいは学科、グループ・個人の単位でも、活発な地域貢献活動が行われた。

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の推進にむけて、キャンパス・プラットフォームとして設置された「しまね地域共生センター」により、地域連携活動の窓口の一本化をはかり、地域志向の研究と教育活動の推進につとめた。以下の目次に従って、松江キャンパスの地域貢献活動をまとめることにする。

1. 地域に関する教育・研究活動
2. 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催
3. 地域活性化支援
4. 教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携
5. 教育課程のための地域の施設・機関との連携
6. 学生による地域貢献活動
7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動

平成28年度の特筆すべき活動は、「しまね地域共生センター」による「履修証明プログラム」の体制構築であった。本学では、地域志向の研究や授業の進展に伴い、地域で学ぶ姿勢が学科を越えて浸透しつつある。これらの地域志向教育と研究の成果を基盤として、地域社会人向けの120時間以上の「履修証明プログラム」コースを8コース開設するよう、3学科で取り組んだ。20年以上続く公開講座「椿の道アカデミー」、ならびに科目等履修生制度とあわせて、本学が地域社会人の新たな学びの拠り所となるよう、平成29年度事業完成年度を目指して鋭意構築を推進している。

学生サークルの自主活動にも、大きな進展があった。本学のボランティアサークル「volcano(火山)」をはじめとして、学生と地域の連携による学生ボランティアの発展が見られた。また、大学間連携を進めるサークル「学生交流ネットワーク」は、松江市観光振興公社と連携して堀川の活性化を目指す「みんなの堀川委員会」を立ち上げるなど、地域と密接に関わりつつ貢献している。ほかにもさまざまな地域連携事業で活躍する学生の姿があり、これらの学生活動を支えた教職員の真摯な地域貢献の姿勢も、学生の活動とあわせて特筆すべきと考える。

今後とも、「地域をキャンパスに」「キャンパスを地域に」の精神を念頭に置き、地域のニーズにこたえる地域貢献活動を継続していきたい。

しまね地域共生センター センター長 山下 由紀恵

1) 地域に関する教育・研究活動

(1) 地域志向科目の位置づけ

平成 28 年度授業計画書には以下の授業を「地（知）の拠点整備事業における地域に関する学修を行う授業科目一覧」と位置付け授業計画書に掲載し、地域志向教育の推進を図った。前期末・後期末に、FDセンターの授業評価とあわせて学生に授業アンケートを行い、実際に学修した地域の範囲と、今後希望する地域について意見をもとめた。ほぼ山陰地域を網羅した本学の地域志向教育の状況が浮かび上がっている。

平成 28 年度「地（知）の拠点整備事業」における地域に関する学修を行う授業科目一覧

健康栄養学科

分野区分		科目名
専門科目	専門基礎	栄養士スキルⅠ
		栄養士スキルⅡ
	食品と衛生	食品機能論
	地域と食生活	地域の特性と食材利用
	卒業研究	卒業研究

保育学科

分野区分		科目名
専門科目	福祉・保育	地域福祉論
		社会的養護
		障害児保育Ⅰ
		障害児保育Ⅱ
	卒業研究	卒業研究

総合文化学科

分野区分		科目名
共通専門科目	世界を知る	アジア文化交流
		アジア文化演習 A
		アジア文化演習 B
	山陰を知る	小泉八雲入門
		へるん探求
		へるん作品鑑賞
		島根の祭りと芸能
		山陰の民話とわらべ歌
		出雲古代史
	基幹科目	卒業プロジェクト
文化資源学系	地域を「知る」「考える」	地域文化研究
		地域探検学
		ミュージアム論
		しまねツーリズム論
		住生活学
		観光資源学

総合文化学科

分野区分	科目名	分野区分
文化資源学系	地域を「歩く」「書く」	文化情報誌制作
		歴史的建造物の検証
		地域デザイン論
		観光まちづくり学
英語文化系	英語とコミュニケーション	文化とガイド
	英語コミュニケーションの実践	観光フィールド・トリップ
日本語文化系	日本のことばと文学	日本古典文学入門
		日本古典文学を歩く
		社会言語学
	日本の文化と歴史	松江の文化と歴史
		しまね歴史探訪

(2) 『しまね地域共生センター紀要』刊行

平成 25 年度の研究協議会での発表を掲載した創刊準備 0 号、平成 26 年度 Vol.1 につづいて、平成 28 年 9 月に「しまね地域共生センター紀要」Vol.3 を刊行した。本学教員の地域志向研究にあわせて、第 1 執筆者に一般の地域専門職が 2 名加わり、地域志向研究の発表のためのセンター機関紙としてさらに充実した。



(3) 『地域研究と教育』の作成

今年度も、本学の過去 5 年間の地域と共同した研究や地域とつながる授業の取り組みをセンターが取りまとめ、紹介した。巻末に、平成 24 年度からの 5 年間の本学の地域志向研究と教育のリストをまとめ、連携先の地域や団体を明示した。

(4) 研究連携協議会

平成 29 年 3 月 3 日に、しまね地域共育・共創助成金採択研究をはじめとして、平成 28 年度中にさまざまな学内研究費を獲得して実施された地域志向研究を発表した。このうち、3 件の発表において、共同研究を実施した学外者が発表に参加した。講師として松江市観光協会観光文化プロデューサーの高橋一清氏、本田雄一学長を迎え、地域志向研究の継続と進展について講評を受けた。



今年度発表研究の発表者、研究題目は以下のとおりであった。

平成 28 年度研究連携協議会（発表内容 | 発表者）

- 1 「島根県内農畜産物の機能性を活かした地域振興への取り組み」
健康栄養学科准教授 籠橋 有紀子
- 2 「加熱がカキ葉粉末のビタミンC含量に及ぼす影響」
健康栄養学科教授 赤浦 和之
- 3 「雲南市幼児期運動プログラムについて」
雲南市子ども政策局子ども政策課 藤原 洋子
保育学科教授 岸本 強
- 4 「島根県における障がい者アートの現状と展望」
島根県社会福祉協議会地域福祉部 佐々木 祐子
保育学科准教授 福井 一尊
- 5 「川本町における保育・教育の連携の取り組み」
川本小学校通級指導教室 大山 英子
川本町教育委員会教育課 坂根 尚美
保育学科教授 山下 由紀恵
- 6 「『出雲神話』の英訳研究」
総合文化学科教授 松浦 雄二
- 7 「島根県の民話資料の保存と整理ー石見地方の民話・語り手についてー」
総合文化学科 教授 岩田英作
島根大学名誉教授 田中瑩一

2) 「社会人の学び」体制構築、公開講座・講演会等の開催

(1) 履修証明プログラム

拠点となるキャンパス・プラットフォーム「しまね地域共生センター」は、地域研究に関しては「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学」を目指すことを掲げた大学憲章に合わせ、「健康・保育・文化・観光」の専門分野を活かした共同研究を推進している。平成 25 年度以降、その成果を活かした社会人向け「履修証明プログラム」の開発に着手していたが、平成 28 年度は、2 年間のコースの開講が行われた。

健康栄養学科は、「ライフステージを通じた食育」「地域特産品と食品開発」の 2 つのコースを開発した。「ライフステージを通じた食育」は、栄養管理を実践してライフステージ別の栄養・食生活に関する課題や食育に関する施策について学び、管理栄養士・栄養士が専門職として食育を実践するための力を育成することを目的としている。「地域特産品と食品開発」は、食品学の基礎から食品加工の理論と実践、島根県内の特色ある農産品および

加工食品について事例を交えながら学ぶことを通して、地域の資源とその活用についての理解を深めることを目的としている。

保育学科は、「障害児保育・相談支援体制」「地域子育て支援人材養成」の2つのコースを開発した。「障害児保育・相談支援体制」は、就学までの子どもの発達の偏り・遅れについて、どのように理解し、どのように支援・指導すればよ



いのか、保育・教育現場で悩んでいる専門職のためのコースである。「地域子育て支援人材養成」は、乳幼児から小学生までの子どもにかかわる子育て支援の理論や実践を中心に学び、地域の人材を活かした子育て支援や地域の子ども活動をリードしていくことができる人材を養成するコースである。

総合文化学科は、「地域で支える生涯学習・教育基盤」「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」「地域情報の発信」の4つのコースを開発した。「地域で支える生涯学習・教育基盤」は、学校司書のための学校図書館基礎講座、および日本の古典・近現代文学、英文学等の解釈、子ども向けの読み聞かせ実践を通して、地域の教育基盤に関わる人材育成の講習を行う。「地域文化資源の掘り起こし・評価・活用」は、多様な文化の学習、子ども塾の活動を通して、地域のさまざまな文化資源をみつめなおし、それらを社会で活用、発信できる人材の育成をめざす。「豊かな自然・歴史や文化を活用した観光」は、地域の歴史、文化、観光に関する理解を深める学習や実地研修、ならびに英語による観光ガイドの実践を通して、新たにボランティア活動などを始めようとする人向けの講習を行う。「地域情報の発信」は、e-ラーニングを使った英語での伝統文化の表現方法の学習や、伝えるためのツールとしてのパソコンの実習、専門的なソフトを利用した「まち歩きマップ」の作成などを通して、地域情報発信に関わる人材向けの講習を行う。

これらの8つのコースは平成28年6月開講し、平成29年度まで2カ年間のスケジュールで公開中である。

(2) 公開講座の開催

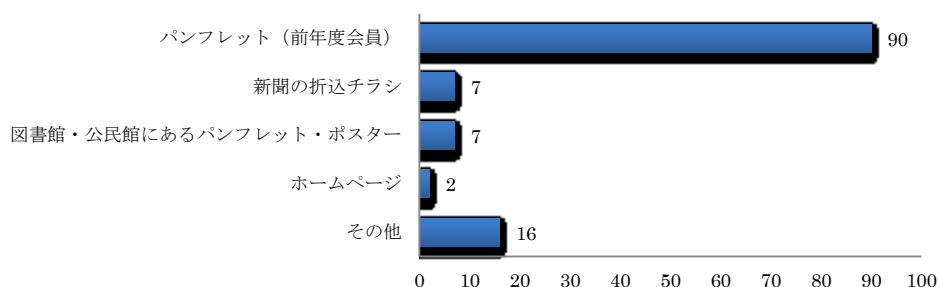
松江キャンパスでは、生涯教育、地域教育の拠点として公開講座を実施している。受講者は「椿の道アカデミー」会員に登録することで、



公開講座のほか松江キャンパス図書館の利用、学内公開授業等への参加が出来る。平成28年度は241名が会員登録をし、全13講座80回を開講した。延べ受講者数は1,622名で昨年度より増加した。(参照：平成28年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況) また、一部を履修証明プログラム連携講座として開講した。

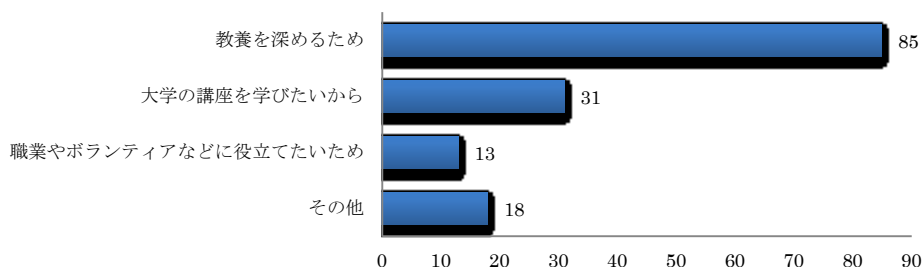
また、今回受講者の多い講座を対象に申込み理由などに関するアンケートを行った。一部の結果については以下のとおりであった。

【受講者募集を知ったきっかけについて】(単位：人)



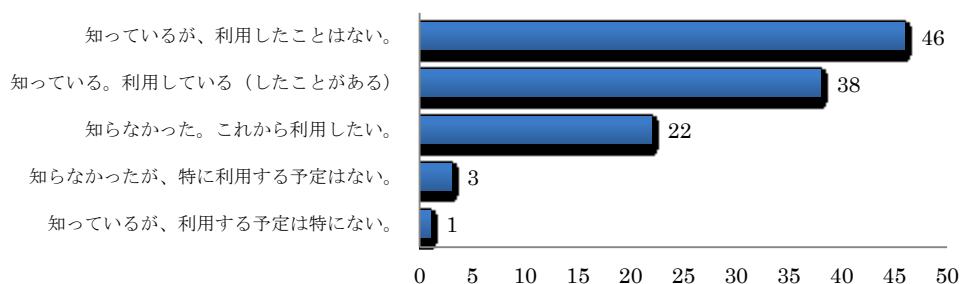
*その他：家族・知人からのすすめなど

【椿の道アカデミーへの申込み理由について】(単位：人)



*その他：若い人とのギャップを少なくするため・学ぶ喜びなど

【松江キャンパスの図書館に利用について】(単位：人)



この結果から、多くの受講者が「教養を深めたい」「大学の授業を学びたい」等という理由で公開講座を継続受講していることがわかる。しかし、松江キャンパス図書館の利用については、周知がまだ不十分であることと、知っていながら実際に利用していない受講者に対する会員サービスについて、今後検討工夫する必要があると思われる。

(3) 客員教授による講演会

平成 28 年度も各学科で客員教授による講演会を実施し、椿の道アカデミー会員や一般に公開した。各学科の客員教授講演会の概要は以下のとおりである。

①健康栄養学科

テーマ：「食と栄養に関する基本知識」「栄養ケアプロセス」

講師：京都府立大学生命環境学部教授、公益社団法人日本栄養士会常任理事学術研究事業部長 木戸康博氏

日時：平成28年11月5日（土） 参加者：約115名

②保育学科

テーマ：「保育における遊びとは何か？」

講師：東京学芸大学名誉教授、元日本保育学会会長 小川博久氏

日時：平成28年11月26日（土） 参加者：約170名

③総合文化学科

テーマⅠ「私の英語学習法」

講師：関西大学外国語学部教授 田尻悟郎氏

日時：平成28年6月24日（金） 参加者：約190名

テーマⅡ「景観の作法—殺風景の日本：松江に育って」

講師：日本大学生産工学部特任教授 布野修二氏

日時：平成28年10月19日（水） 参加者：約150名

3) 地域活性化支援

(1) 企業・団体・NPO法人等との連携

松江キャンパスでは、平成28年度もNPO法人等、学外団体との協力を継続的に推進した。今年度は、健康栄養学科による食育推進での連携活動、島根県特産品の振興を図る取り組み、総合文化学科の「おはなしゼミ」による県内各地での読み聞かせ活動等、多彩な連携事業を実施した。

平成28年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
食育の情報発信に関する研究	名和田 清子(健康栄養学科教授) 川谷 真由美(健康栄養学科助手)	平成28年 6月～ 平成29年 3月	松江キャンパス健康栄養学科教員及び学生21人が参加
第42回小児糖尿病大山サマーキャンプ	名和田 清子(健康栄養学科教授)	平成28年 8月7日 ～14日	松江キャンパス健康栄養学科2年生6名がボランティアとして参加
こっころ10周年記念フェスタ(島根県)	名和田 清子(健康栄養学科教授) 川谷 真由美(健康栄養学科助手)	平成28年 10月30日	松江キャンパス健康栄養学科教員2名及び学生9名が参加。食育コーナー(食育ボードゲーム)出展及び着ぐるみボランティア

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
どすこいフェスタ (NHK 松江放送局)	名和田 清子 (健康栄養学科教授) 川谷 真由美 (健康栄養学科助手)	平成 29 年 2 月 12 日	松江キャンパス健康栄養学科教員 3 名及び学生 8 名、地域連携課 2 名、浜田キャンパス地域連携課 1 名参加。学生作成オリジナルちゃんこ 300 食を提供
小さなブランド化の可能性調査：棚田米を事例にして	酒元 誠治 (健康栄養学科教授) 豊田 知世 (浜田キャンパス総合政策学部講師)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 1 月	両キャンパスで開催された大学祭参加者から 522 名分のアンケートを回収。酒元・豊田両研究室の卒論生 20 名が参加。また、食事サービス論実習時に、坂本米の天日干し vs 非天日干しの食味テストを実施
上記関連「坂本米食味調査報告会」	酒元 誠治 (健康栄養学科教授) 豊田 知世 (浜田キャンパス総合政策学部講師)	平成 28 年 12 月 18 日	於：坂本構造改善センター (豊田研究室から学生が 13 名参加)
産学官連携企画ジビエガンボスープ試食会実施 (まつえ農水商工連携推進協議会、松江市八雲猪肉生産組合、カレー工房ダーニャとの連携企画)	小泉 凡 (総合文化学科教授) 籠橋有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 25 日	松江市長を訪問し、しまね三昧ジビエ・ガンボスーププレトルト化を記念しての試食会実施。松浦正敬松江市長をはじめ松江市職員、その他報道関係機関など多数出席
産学官連携によるしまね三昧ジビエ・ガンボスープの商品化	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 26 日～	産学官連携によるしまね三昧ジビエ・ガンボスープの商品化・発売 (7/26～小泉八雲記念館・カレー工房ダーニャ・11/7～島根県観光物産館 {学校から生まれた商品フェア}) まつえ農水商工連携推進協議会との連携
全国つや姫フォーラムへの参画	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 7 月 29 日	全国つや姫フォーラムでのシンポジスト 研究発表およびパネルディスカッション参加
島根県農業技術センター 有機農業グループ	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	有機米の特性分析 健康栄養学科 2 年生 2 名参加
島根県農業協同組合石見銀山地区本部 共同研究	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 6 月～ 平成 29 年 3 月	「石見銀山和牛」の特性を生かす加工食品開発の研究 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加
島根県畜産技術センター 受託研究	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 5 月～ 平成 29 年 3 月	新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価健康栄養学科卒業研究ゼミ生 2 名参加島根県畜産技術センターとの受託研究
島根県畜産技術センター ふれあいまつりへの参画	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 29 日	「しまね和牛肉」を活用したしまね三昧カレーの販売 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 5 名参加
松江市農林水産祭への参画	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 30 日	まつえ農水商工連携推進協議会との連携により、しまね三昧ジビエ・ガンボスープの販売・まつえ宝刀鍋の販売 健康栄養学科卒業研究生 6 名の参加
島根県産業技術センター 浜田技術センターとの共同研究	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	食肉の特性を生かした調理加工方法の検討 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 3 名参加

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの開発・発売 島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 28 年 11 月	島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」を(株)ローソンと共同開発健康栄養学科卒業研究ゼミ生 9 名参加
株式会社ローソンとの連携によるパンとスイーツの島根県知事試食会	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 10 月 5 日	島根県産米粉を使用した「ぜんざい風デニッシュパン」および島根県産いちじくの「豆乳ホイップエクレア」を島根県知事試食会へ。健康栄養学科卒業研究ゼミ生 9 名参加 株式会社ローソン上部執行役員、島根県職員、その他報道関係機関など多数出席
H28 年産米の食味ランキング (日本穀物検定協会主催) 出品材選定のための最終選抜審査会	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 12 日	H28 年産米の食味ランキング(日本穀物検定協会主催) 出品材選定のための最終選抜審査会への参加協力 (島根県農業協同組合斐川地区本部)
島根県農産園芸課、島根県農業技術センター 受託研究	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 13 日	「つや姫」のおいしさの見える化に係る物性及びテクスチャーを中心とした官能評価試験 健康栄養学科 2 年生 3 名参加
COC+しまね大交流会への参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 28 年 12 月 14 日	しまね三昧食品科学研究所での食品開発について健康栄養学科卒業研究ゼミ生との研究発表 卒業研究ゼミ生 3 名参加
鳥獣対策研究を活用した食品開発	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 27 年 5 月～	卒業研究ゼミ生による鳥獣の機能性研究を実施、しまね三昧食品科学研究所での食品開発へつなげる 健康栄養学科卒業研究ゼミ生(籠橋研究室)参加 まつえ農水商工連携推進協議会との連携
まつえ食まつり 2017 への参画	籠橋 有紀子(健康栄養学科准教授)	平成 29 年 2 月 5 日	まつえ農水商工連携推進協議会との連携による「まつえ宝刀鍋」の作成・販売 健康栄養学科卒業研究ゼミ生 3 名参加
安心・安全な児童福祉施設環境の構築に向けた連携	藤原 映久(保育学科准教授)	平成 27 年 4 月～ 必要な期間	児童養護施設安来学園及び島根県中央児童相談所との協働の下、児童養護施設職員向け養育支援プログラムの開発と実践を行う。
「第 43 回ほいくまつり」開催	福井 一尊(保育学科准教授) 矢島 毅昌(保育学科准教授) 梶間 奈保(保育学科講師)	平成 28 年 6 月 25 日	島根県民会館と共催事業 参加学生：106 名 出雲市民会館にて「第 43 回ほいくまつり」を開催
松江市産業観光部観光施設課への協力	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	32 年ぶりの小泉八雲記念館増床・リニューアルに際し、同館館長として展示計画策定・展示解説執筆・図録の執筆および監修にあたる。また、8 月 3 日には本学と連携協定を結ぶ。
NPO 法人松江ツーリズム研究会への協力	小泉 凡(総合文化学科教授)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	同 NPO 法人が管理・運営する小泉八雲記念館の館長として、企画展「怪談—再話文学の永遠性—」の展示解説作成・監修、館長のトークシ

平成 28 年度松江キャンパス学外団体との共催事業及び学外団体への協力事業

事業名称	担当者	期間	事業内容・参加者他
			ヨー（8月13日）を行う。また、ミステリーツアー（9月10日）の講師をつとめる。
焼津小泉八雲記念館（焼津市教育委員会）への協力	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	焼津小泉八雲記念館の名誉館長として、焼津ゴーストツアー（7月30日）、講演会講師（7月31日）、文芸作品コンクールへのメッセージ執筆、29年度の10周年記念事業への助言等を行う。
「子ども塾—スーパーヘルンさん講座—」（松江市産業観光部観光文化課主管・子ども塾実行委員会主催）への参画	小泉 凡（総合文化学科教授）	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	子どもの五感力を育む教育実践第13回「子ども塾」の塾長をつとめる。テーマは「ヘルンまちぶらマップを作ろう」。島根大学附属小学校の教員らと連携して実施。7月28日、8月2日、8日に実施。
アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2017（松江市産業観光部国際観光課主管、アイリッシュ・フェスティバル実行委員会主催）への参画	小泉 凡（総合文化学科教授） 小倉 佳代子（コーディネーター）	平成 28 年 10 月～ 平成 29 年 3 月	3月12日開催の同事業の実行委員長・委員として企画・運営にあたる。本学のティン・ホイッスル・サークル学生約10名もボランティアとして活動を支える。
JR西日本「山陰みらいドラフト会議」	藤居 由香（総合文化学科准教授）	平成 28 年 4 月～11 月	実習科目「歴史的建造物の検証」受講者11名が参加

①健康栄養学科の地域活性化支援

健康栄養学科では、食育に関する情報発信や教育媒体等の開発、食文化の継承に係る研究等を積極的に行い、ライフステージを通じた食育に取り組んでいる。また、難病患者会の活動支援や各種コンクール等への協力を行っている。さらに、島根県産品の振興を図る継続的な取り組みとして、松江市や島根県などの自治体と連携して共同開発および共同・受託研究を実施している。今年度は、松江市と連携して西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発、西条柿冷凍熟柿および冷凍ドライ熟柿の開発および西条ガキ熟柿ピューレの省力化生産技術の開発、しまね和牛や猪肉の機能性分析とその成果を活かした食品加工への提案、出西生姜などとのコラボレーションによる食品開発を行った。また、今年度は、島根県産米「つや姫」や、有機栽培米「きぬむすめ」の分析を行い、品種や栽培方法の違いによる特性について検討した。

【食育の情報発信に関する研究】

島根県では、「若い世代への食育の推進」を重点課題として食育の取り組みを進めている。健康栄養学科の学生による“島短食レポ隊”が県内各地を取材し、「おいしい・たのしい・ためになる」食育体験を教員と学生が2年間にわたり島根県内10か所以上を巡り、情報発信した。シジミ漁師さんなど食に携わる人たちの取材や、味噌作り、ジャム作りなどを体験し、若者が伝えたい島根の食について記事にした。



食を通して島根の魅力を再発見してくれることを目的として、今後もその効果を検証する。



【食育ボードゲームの開発】

食と健康に興味・関心を持つ子が増えるようにと、学生が願いと学びを込めて「食育ボードゲーム」(すごろく)を制作した。島根県を旅しながら、特産品を探していくストーリー。家庭用・学校用と2種類制作し、対象や用途に応じて使い分けできるようにした。実際に学校や家庭、イベントで子どもたちや家族で遊んでもらいながら効果を検証している。



【患者会への参加】

難病患者会の活動支援のため、健康栄養学科教員および学生がボランティアとして活動した。今年度は、小児糖尿病患者会「第43回小児糖尿病大山サマーキャンプ(主催:日本糖尿病協会島根県支部「大山家族」)」にて教員1名、学生6名(8月15日~8月20日)がボランティアとして参加した。

【「伝え継ぐ日本の家庭料理」島根県調査研究】

日本調理科学会活動の一環として伝え継ぐ日本の家庭料理を全国一斉に発信する取り組みを石田千津恵助教が行っている。島根県栄養士会、島根県食生活改善推進協議会と共に「食つづり」や島根県HP掲載のレシピを参考に、東部、西部、隠岐地域に分けて伝え継ぐべき家庭料理40品を選定した。今後現地で実際に調理、撮影を行い、出版物の完成を目指す。

【小さなブランド化の可能性調査】

浜田市旭町坂本地区は、地域の高齢化および人口減少が問題となっている。若い定住者を呼び込みたいが、新規の定住者が一定の収入を得るビジネスモデルを構築しないままでは、安定的な定住は望めないため、浜田キャンパスの豊田研究室と酒元誠治教授が共同で、浜田市旭町坂本地区で栽培される米の高付加価値化の可能性をさぐる研究を行った。



【西条ガキを使った商品開発】

西条柿熟柿ピューレを利用した食品開発では、松江市東出雲町の柿農家と赤浦和之教授および学生 3 名が協力し、松江市商工企画課の支援も受けて秋鹿ごぼうと熟柿ピューレ入りレトルトカレー「美肌の国 キーマカレー」の商品名で商品化し、好評を博している。次年度も引き続き、地域の活性化の観点から、様々な軟らかさの西条ガキ干し柿の生産技術の開発と干し柿や熟柿ピューレを用いた加工食品の開発を行う。



▲熟柿ピューレを用いた「美肌の国キーマカレー」



【あんぽ柿の食味協力】

島根県農業技術センターからの依頼で、赤浦和之教授および教員 1 名、学生 12 名が協力し、あんぽ柿の官能評価を行った。

【「しまね和牛肉」の食味研究と商品開発】

新たな評価基準「保水性」に着目したおいしい「しまね和牛肉」の生産に係る牛肉品質の評価について、籠橋有紀子准教授および学生 2 名が島根県畜産技術センターとの受託研究において協力し、官能試験および理化学分析を用いて「しまね和牛肉」の食味を科学的に評価し、データの提供を行った。

【鳥獣対策研究の一環としてのジビエ商品開発】

猪肉について、その加工方法の提案を籠橋有紀子准教授および学生 3 名が行った。松江市八雲産の猪肉の特性を活かしたガンボスープ(小泉八雲が愛したニューオリンズのソウルフード)を、籠橋有紀子准教授および学生 2 名で、小泉凡総合文化学科教授の協力のもと作成した。食の機能性と文化の融合による島根県立大学のオリジナリティあふれる調理加工品の提案となった。平成 28 年 7 月には島根大学教育学部附属小学校との連携により学校給食への展開が実現した。また、同時期にカレー工房ダーニャとの連携でレトルト食品化を実現し、小泉八雲記念館や島根県観光物産館等で発売された。



【(株) ローソンとの産学官連携によるスイーツ&ベーカリー商品化】

コンビニエンスストアでの販売を前提として島根の農産物を使ってスイーツとベーカリーを考案した。籠橋有紀子准教授および籠橋研究室ゼミ生が卒業研究の一環で(株)ローソンへの発案・試作の依頼、連携して試作品を絞り込んだ。ぜんざい風デニッシュパン(島根県産米粉を使用)&豆乳ホイップエクレア(島根県産いちじくを使用)が平成28年10月に中四国全域のローソンで発売された。



【島根米の品質評価】

島根大学生物資源科学部と籠橋有紀子准教授および学生2名との連携により、有機農産物の中でも今年度より有機米に着目し、食味について官能評価、理化学分析を行い、試食販売等にその成果を活用した。島根県農業技術センターにおいて栽培された有機米の官能評価および理化学分析も合わせて行った。また、島根県産米「つや姫」の科学分析では、温暖化により品質の低下している平坦地域の「コシヒカリ」に替わる米として、「つや姫」の普及拡大を目的に、島根県、島根県農業技術センターと共同で官能試験、理化学分析(電子顕微鏡で炊飯米断面の構造を観察、テンシプレッサーで炊飯米物性(粘りと硬さ)を機械的に測定)を行った。品種や栽培地域の違いによる品質特性について検討した。また、現代のライフスタイルに合った島根米活用方法の提案を行った。

【知的財産権の活用】

籠橋有紀子准教授は、平成24年度に糖尿病予防及び治療に寄与する2件の発明に対する特許を取得した。今年度は産学官の連携による糖尿病予防のための基礎研究および結果を活かした栄養価計算ソフトウェアを教育への展開を試みた。

②保育学科の地域活性化支援

【島根県保育所(園)・幼稚園造形作品展】

福井一尊准教授が、島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会顧問として県内保育所・幼稚園に連携協力し、平成28年11月25日に本学で園児の絵画作品審査会を実施した。同審査により選ばれた園児の作品は、島根県立美術館で平成29年1月12日から16日まで「第12回島根県保育所(園)・幼稚園造形作品展」として展示・公開された。

【島根県障がい者アート作品展】

福井一尊准教授は、平成 28 年 11 月 30 日に社会福祉法人島根県社会福祉協議会主催の「平成 28 年度島根県障がい者アート作品展」において、審査委員長として絵画・書・写真・デザイン・工芸等作品の公開審査を行った。本展覧会は 12 月 2 日から 4 日まで島根県立美術館で開催された。

【NPO 法人あしぶえとの連携】

平成 23 年度に山下由紀恵教授・森山秀俊教授・福井一尊准教授が、NPO 法人あしぶえ・松江市健康福祉部子育て課との共同研究を通じて開発した「松江発一保育専門職のための『表現とコミュニケーション』ワークショップ・プログラム」の効果を土台として、本年度も保育学科の正課「児童文化」に NPO 法人あしぶえによるワークショップを組み込み、一部連携した授業を実施した。

③総合文化学科の地域活性化支援

総合文化学科では、しまね多文化共生ネットワークとの共催による「医療英語勉強会」（ラング・クリス准教授）の開催、英語絵本の読み聞かせ（小玉容子教授）、卒業プロジェクトおはなしゼミによる読み聞かせボランティアの実施（岩田英作教授）、NPO 松江ツーリズム研究会と連携した文化資源をツーリズムに生かす実践活動（小泉凡教授）、（一社）鉄の歴史村地域文化研究所と連携した観光教育の実践および NPO 松江ツーリズム研究会の協力による松江興雲閣訪問客の実態調査など（工藤泰子准教授）、昨年に引き続き、活発な活動が行われた。

【「キッズ・イングリッシュ」の英語絵本読み聞かせ活動】

平成 28 年度の「キッズ・イングリッシュ」（担当は小玉容子教授、ダスティン・キッド講師、総合文化学科 2 年前期）受講生 5 名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。5 月から 6 月にかけて、絵本や紙芝居の読み聞かせと歌や手遊びなどを組み合わせ、20 分程度の時間で計 3 回実施した。また、10 月には大学祭企画の一つとして、同様の内容で「読み聞かせ」を実施した。



▲キッズ・イングリッシュでの活動

学生たちは、出版されている絵本だけでなく、授業で作成した教材なども用いて、児童英語教育実践活動を行うことができた。子どもたちだけでなく保護者も一緒になったの活動となった。また、学生の実践力向上にとって貴重な体験となった。

【医療英語勉強会】

「医療英語勉強会」（担当はラング・クリス准教授）は、島根に住む外国人を対象とした医療通訳育成・技能向上を目的として実施中の事業である。しまね多文化共生ネットワ

ークと連携し、平成 20 年 4 月から月に一度、金曜日の午後に 2 時間ほど勉強会を実施している。勉強会参加者は、10 名程度である。勉強会では、実際の医療場面を想定したテキストの日本語から英語への翻訳学習を行い、診療科ごとの通訳会話役割練習を行う他、医療に関する研究報告をビデオで見てからディスカッションすることで、医療用語を身につけることを目的とした。

【ミステリー・ツアーの企画・実施】

昨年度に引き続き、山陰地方の文化資源をツーリズムに活用する実践としてミステリー・ツアーを企画・実施した。実施日は 9 月 10 日（土）で、訪問先は参加者に事前に明かさない。小泉凡教授が NPO 法人松江ツーリズム研究会旅行事業部と連携して企画・運営・当日の講師をつとめた。平成 28 年度は、「小泉八雲」をテーマとし、32 年ぶりにリニューアル・オープンした松江市の小泉八雲記念館での講演と見学、一畑薬師、同寺門前の商店での「八雲が愛したスペシャル御膳」の昼食、八雲が神在祭を見学した佐太神社などを訪問した。

【雲南市吉田町における観光教育の実践】

工藤泰子准教授は、平成 25 年度から（一社）鉄の歴史村地域文化研究所をはじめとする吉田町の人々と連携した観光教育を実践している。「観光資源学」（総合文化学科 1 年後期選択科目）において、履修生 52 名が、たたら製鉄の歴史と文化を観光に活かすことをテーマに、鉄の歴史博物館、菅谷たたら山内、生活伝承館などを訪問した。

【松江城興雲閣訪問客の実態調査】

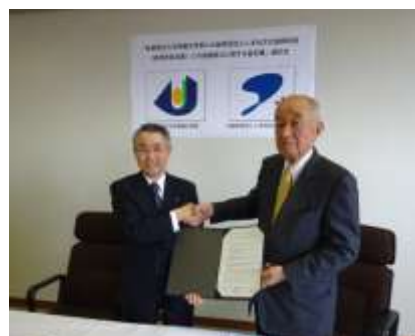
「観光まちづくり学」（総合文化学科 2 年後期選択科目、担当は工藤泰子准教授・竹田茉耶非常勤講師）の履修生 20 名と有志学生 1 名（計 21 名）は、NPO 法人松江ツーリズム研究会の協力のもと、松江城山興雲閣にて訪問客にヒアリング調査を実施した。10 月 9 日（土）、10 日（日）に 271 名を対象に調査した後、グループに分かれてデータの入力・分析を行い、12 月 20 日に報告会を実施した。調査結果は報告書にまとめ、関係機関に配布した。



▲興雲閣にて訪問客にアンケート調査

④連携協定

島根県における文化芸術・教育の発展に寄与することを目的に、公益財団法人しまね文化振興財団（島根県民会館）と連携協定を締結した。両者は、保育学科の総合表現活動「ほいくまつり」などを通し、これまで 40 数年にわたり学生の実践研修や乳幼児への芸術鑑賞の提供等を共同して行っている。



▲しまね文化振興財団との連携協定調印式

また、公益財団法人しまね産業振興財団、一般社団法人島根県発明協会との三者で、産業振興に関する包括的連携協力協定を締結した。

(2) 自治体等との連携

①松江市との教育連携協議会

松江キャンパスは、平成19年度に松江市との協力協定を締結し、その後は協定を踏まえ、教育連携協議会の開催や「公開講座」でまつえ市民大学と連携するほか、松江市主催行事に本学教員と学生が協力するなど連携を強化している。正課教育において、松江市職員を非常勤講師とする複数の専門科目講義・実習、松江市立施設・学校における実習も継続して実施している。このような緊密な教育上の連携を踏まえて、平成29年2月7日に松江市と教育連携協議会を開催し、実習協力や講師派遣について実務的な連携について協議した。

【平成28年度 松江市・島根県立大学短期大学部松江キャンパス教育連携協議会】

- 会場 島根県立大学短期大学部松江キャンパス大会議室
- 日時 平成29年2月7日(火) 13時30分～14時30分
- 議事

- 1 松江キャンパス新学部・学科の特色及び育成する人材像の概要
- 2 松江キャンパス4大化に係る課題解決に向けた連携体制について
- 3 実習(栄養士・保育士・幼稚園教諭)受け入れ協力について
- 4 講師の相互派遣についての実績と計画
- 5 松江市の諸団体との連携・協力状況について

- 出席者

松江市：政策部次長、政策企画課副主任(包括協定担当)、教育委員会次長、健康福祉部子育て課長、産業観光部次長、発達・教育相談支援センター特別支援教育係長

松江キャンパス：副学長、教務学生生活部長、健康栄養学科長、総合文化学科長、しまね地域共生センター長(保育学科長兼)、地域連携推進委員、事務室長、地域連携課長

②松江市主催文化教育行事への協力

【「第13回子ども塾—スーパーヘルンさん講座」への協力】

松江市観光文化課および「子ども塾実行委員会」主催による、子どもの五感力育成の教育実践である標記事業に、総合文化学科の小泉凡教授(塾長)、小倉佳代子コーディネーター(実行委員)が企画・運営・実施に協力した。実施日は、平成28年7月28日、8月4日、8月8日。会場はおもに小泉八雲記念館・カラコロ工房周辺。テーマは「へるんまちブラマップ」。



▲第13回子ども塾—スーパーヘルンさん講座

【「小泉八雲 朗読の夕べ」への協力】

松江市観光文化課主催により平成 28 年 11 月 26 日にプラバホールで開催。テーマは「転生：絶望の淵から蘇る輪廻のしらべ」。総合文化学科の小泉凡教授が、佐野史郎氏・山本恭司氏出演による上記イベントの企画、実施、脚本監修、パンフレット執筆、レクチャーを担当する。本学ティンホイッスル・サークル学生 5 名もボランティア・スタッフとして参加した。

なお、同行事は 11 月 26 日には、ホテル一畑で本学松苑会創立 70 周年の記念事業においても「望郷：失われることのない永遠の魂の故郷」のテーマで実施され、小泉凡教授が「八雲が見た神々の国」と題したレクチャーを行った。

【「アイリッシュ・フェスティバル in 松江 2017」への協力】

松江市国際観光課・山陰日本アイルランド協会・南殿町商店会・松江京店商店街協同組合等を実行委員会とするアイルランドと松江の文化交流・松江の文化振興および中心市街地活性化の目的で実施する行事で、平成 29 年 3 月 12 日に開催。総合文化学科の小泉凡教授が実行委員として、松江キャンパスのティンホイッスル・サークル、総合文化学科 1・2 年生約 10 名の学生がボランティア・スタッフとして参加した。

【「共創・協働マーケット」への参画】

松江をよくする提案を共有し事業につなげる場として、昨年につき、松江市主催「2016 松江共創・協働マーケット」が平成 28 年 7 月 3 日に開かれた。学外からは、大学への求めを知る機会となり、大学からは、しまね地域共生センターおよび学生ボランティア活動などの紹介を中心に、大学にできることの可能性を広報した。

③小泉八雲記念館との連携協定

教育・研究・広報等の分野における相互協力を目的に、小泉八雲記念館との連携協定を締結した。今後は小泉八雲に関する授業等での記念館の利用、企画展に伴うイベントへの協力等を行う。平成 28 年 8 月と 10 月には、学生が小泉八雲記念館で怪談の読み聞かせを行った。



▲小泉八雲記念館との連携協定調印式

④松江市立女子高等学校との連携

平成 28 年 10 月 31 日、松江市立女子高等学校 1 年生のキャリア教育推進に協力して、1 年生全員（120 名）のキャンパス見学と模擬授業、および卒業生交流会を実施した。模擬授業は、地域連携推進委員会から渡部周子講師により「女学生文化を考える」というテーマで行われた。講義後は、松江市立女子高等学校出身の本学学生（5 名）との交流会を行った。

⑤正課授業における連携協力

【保育学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

保育学科専門科目「障害児保育Ⅰ」（1年後期必修科目・1単位）の非常勤講師として、松江市立発達・教育相談支援センター所長の小脇洋講師、同指導主事の金山由美子講師、武藤裕子講師により、支援の必要な子どもの実態や松江市の取り組み・関係機関との連携等についての講義が行われた。保育学科専門科目「地域福祉論」（2年後期選択科目・2単位）の非常勤講師として、元松江市社会福祉協議会常務理事の須田敬一講師により、松江市における地域福祉の実践例を通じた講義が行われた。

【総合文化学科専門科目における学外の専門職現任者および経験者による講義】

「しまねツーリズム論」（文化資源学系2年後期選択科目・1単位）の学外講師として、松江市産業観光部観光文化課文化係長の高田俊哉氏が授業を担当した。また現地研修において、「地域探検学」（文化資源学系1年生前期選択科目・1単位）では奥出雲町地域振興課、「へるん探求」では鳥取県大山町教育委員会および日野町（景山町長）、「ミュージアム論」（文化資源学系1年生後期選択科目）では島根県立美術館と松江歴史館の全面的な協力を得て授業を実施した。

【松江市立施設・学校における実習協力】

健康栄養学科・保育学科の専門科目実習について、松江市立病院、松江市立学校給食センター、松江市立保育所、松江市立幼保園のぎ、松江市立幼稚園が協力し、実習指導を行っている（実習欄に別掲）。

4）教育機関等との連携—保・幼・小・中・高・大の教育連携

初等中等教育機関との教育連携については、平成18年度の協定締結以降、各学科における松江市立幼保園のぎ・松江市立乃木小学校・松江市立湖南中学校・松江商業高校との緊密な連携協力のもと、教員による特別授業のほか、学生による読み聞かせ実践・食育実践指導等の連携事業を実施し、教育的成果をあげている。

(1) 連携校協議

平成28年7月8日に、松江市立幼保園のぎ、松江市立乃木小学校と松江キャンパスの三者連携会議を松江キャンパスで行った。また、平成28年5月17日と平成29年2月20日に松江市立湖南中学校、島根県立松江商業高等学校、松江キャンパスの三者連携会議が松江市立湖南中学校で行われた。

また、まつえ湖南学園地域推進協議会の主催による、ふるさと研修会が平成28年8月23日に開催され、本学と松江商業高校も連携校として湖南地区の各学校ともに参加した。

平成 28 年度松江キャンパス教育機関との連携事業

機関名	担当者	内容	期間	参加者他
松江市立乃木小学校	直良 博之（健康栄養学科教授） 川谷 真由美（健康栄養学科助手）	食育授業	平成 28 年 11 月 25 日	5 年生 172 名を対象 教員 2 名及び健康栄養学科 2 年生 5 名が参加
松江市立大谷小学校	福井 一尊（保育学科准教授）	文化庁「芸術家学校派遣事業」 松江市立大谷小学校 図画工作科特別講師	平成 28 年 10 月 11 日	全児童、全教員、隣接する大谷幼稚園の園児
松江市立湖南中学校	小泉 凡（総合文化学科教授）	総合的学習の時間「地域探検の魅力」	平成 28 年 6 月 2 日	湖南中 1 年生 175 名教員 4 名参加
松江市立乃木小学校		総合的学習の時間「小泉八雲について」	平成 28 年 10 月 26 日	乃木小学校 3 年生 35 名教員 1 名参加
松江市立幼保園のぎ	岡本 千佳子・岩田裕子（総合文化学科非常勤講師） 尾崎 智子・内田 絢子（司書）	3 学科共通科目「読み聞かせの実践」	平成 28 年 5 月～平成 29 年 1 月	健康栄養 3 名 保育 24 名 総文 48 名
松江市立乃木小学校		3 学科共通科目「読み聞かせの実践」	平成 28 年 5 月～平成 29 年 1 月	健康栄養 3 名 保育 24 名 総文 48 名
松江市立忌部小学校	マユー あき（総合文化学科教授） 岩田 英作（総合文化学科教授）	総合文化学科卒業プロジェクト「おはなしゼミ」	平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月	総文 10 名
松江市立湖南中学校	高橋 純（総合文化学科教授）	発表の仕方について（総合的な学習）	平成 28 年 9 月 21 日	湖南中 1 年生 175 名教員 4 名参加
島根大学教育学部附属小学校	小泉 凡（総合文化学科教授） 籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	しまね三昧ジビエ・ガンボスープの学校給食への展開	平成 28 年 7 月 12 日	島根大学教育学部附属小学校全校生徒および教員参加 まつえ農水商工連携推進協議会職員参加

出張講座（高大連携）の状況

（大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合）

依頼先	担当者		講義テーマ	参加者数
島根県立松江北高等学校	名和田 清子（健康栄養学科教授）	平成 28 年 7 月 13 日	平成 28 年度 2 年普通科「グローバル課題研究 領域別講演会「医療・福祉・健康領域における現状と課題」	47
島根県立松江北高等学校		平成 29 年 2 月 7 日	平成 28 年度 2 年普通科「グローバル課題研究 領域別領域別成果発表会」審査及び発表評価	5 グループ

出張講座(高大連携)の状況

(大学への派遣依頼を受け、専門領域の講義を高校生向けに行った場合)

依頼先	担当者		講義テーマ	参加者数
松江市立女子高等学校	小泉 凡 (総合文化学科教授)	平成 28 年 5 月 27 日	国際文化観光科 1 年郷土学習講師「五感でとらえた明治の松江～小泉八雲の世界～」	30
学校法人大多和学園 開星高等学校	小泉 凡 (総合文化学科教授)	平成 28 年 12 月 19 日	生活教養 教科融合型授業 国語・英語「小泉八雲～『開かれた精神』の航跡を辿る～」	25

(2) 健康栄養学科の教育機関連携

【小学校での食育授業】

松江市立乃木小学校での食育授業は、湖南中学校、乃木小学校との三者連携推進事業をきっかけに今年度で 10 年目を迎えた。平成 28 年度には、乃木小学校の 5 年生 172 人を対象に「朝ごはんの大切さ」について食育授業を行った。

直良博之教授、川谷真由美助手と学生 5 名が取り組み、生物リズムと食事について、朝ごはんを食べることの重要性を児童と一緒に考えながら実施した。



▲松江市立乃木小学校での食育授業

【島根大学教育学部附属小学校との連携】

籠橋有紀子准教授は小泉八雲が残した文献をもとに、しまね三昧ジビエガンボスープを作成し、まつえ農水商工連携推進協議会および島根大学教育学部附属小学校との連携により、学校給食への展開を行った。給食時間の前に総合文化学科の小泉凡教授による授業を行い、小泉八雲の世界観を学び、ガンボスープができるまでを籠橋有紀子准教授が話した。その後、全校生徒が給食でガンボスープを食べ、好評であった。



▲島根大学教育学部附属小学校での給食および授業の様子

(3) 保育学科の教育機関連携

保育学科の正課「児童文化」では、1年生と2年生が合同で複数のパートに分かれて「児童文化」のための制作過程を学び、「ほいくまつり」の開催によって地域の子どもたちと交流しつつ、大学での学びを還元している。この「ほいくまつり」の案内にあたって、松江市内保育所・幼稚園がポスター掲示・パンフレット配布に協力している。この「児童文化」の教育課程は、平成17年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」の選定を受けて全国的にも評価された。平成28年度「第43回ほいくまつり」は、平成28年6月25日（土）に出雲市民会館で開催され、多くの親子が学生の作りだした歌唱・司会・影絵・劇などの「児童文化」を楽しみ学生と交流した。



「ほいくまつり」とは？

私たち島根県立大学短期大学部保育学科は、毎年6月島根県民会館大ホールに1,500人の子どもたちとその保護者を招待して『ほいくまつり』を開催しています。

この『ほいくまつり』というのは、私たち学生が日頃学内で学んでいることを総合表現として舞台上で発表することを通して県の児童文化向上に寄与するとともに、地域の子どもたちや保護者の皆様に楽しく夢のあるひとときを過ごしてもらおうという趣旨で開催しているものです。

取り組みの軸となるのは実行委員会です。実行委員長、総合責任者、会計の三役を中心に各パートのリーダーを合わせた14人がその構成メンバーです。このリーダー会は定期的に行われ、各パートの要望や意見が交流されるとともに、話し合いを通じて方針が出されかつ総合的な指示が出されていくのです。

『ほいくまつり』の取り組みは、『児童文化』という授業の一環として行われますが、週に2回の授業の時間だけでは時間は全く足りません。そこで、準備はほぼ毎日、放課後残って行うこととなります。5月に入るとパート別のリハーサル、6月になると全体リハーサルが始まります。その場では先生方や他のパートの仲間たちから多くの課題点が出され、よりよいものを創るために各パートは議論をし、修正していきます。もちろん、なかなか自分たちの思うようにはいかず、みんなで悩みながら進めていくこととなります。しかし、その過程の中で協力することの大切さを学び、感性を磨いていくとともに、保育というものが要求する厳しさを知るのであります。

当日、子どもたちの笑顔にたくさん出会えることは最高の感動ではありますが、同時に『ほいくまつり』の取り組み過程そのものが私たち自身に大きな自信と勇気と夢を与えてくれるのです。



(4) 総合文化学科の教育機関連携

総合文化学科では、岩田英作教授・マユアキ教授とともに、「読み聞かせの実践」を履修する学生（全学科）、卒業プロジェクト「おはなしゼミ」の学生が、松江市乃木小学校、忌部小学校、幼保園のぎなどで、絵本の読み聞かせ活動を行った。（「7. おはなしレストランライブラリーの地域連携活動」参照）

また、松江市立湖南中学校における総合的な学習の時間への協力事業として、総合文化学科の2名の教員が、専門分野や総合文化学科の担当授業の内容を生かして、昨年に引き続き協力授業を行った。小泉凡教授の授業は平成28年6月2日「地域探検の魅力」、高橋純教授の授業は9月21日「発表の仕方」であった。

5) 教育課程のための地域の施設・機関との連携

健康栄養学科、保育学科において実習先との連携の強化策を検討し、可能な部分から実施している。健康栄養学科では、栄養士養成のため各種給食施設等との緊密な連携を図っている。保育学科は、実習指導計画から実習評価に至るまで実習先と連携して実習成果の充実を図っている。

(1) 健康栄養学科の実習施設・機関との連携

栄養士免許を取得するためには、校外実習が必修である。平成28年度に実施した県内施設を下表に示した。実習終了後は、評価票の提出を求め、次年度の内容を検討する資料として、学生が作成した実習レポートを送付し連携を図った。また、実習先の管理栄養士を本学非常勤講師として招聘したり、学生を島根県栄養士会の研修会に参加させる等して連携強化を図っている。

平成28年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
島根	松江赤十字病院	2	9/12～9/16
		2	9/5～9/9
	松江市立病院	2	8/22～8/26
	独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター	2	9/5～9/9
	社会福祉法人 隠岐共生学園 介護老人保健施設 もちだの郷	1	8/22～8/26
		2	8/29～9/2
	松江市立北学校給食センター	2	9/12～9/16
	松江市立南学校給食センター	3	9/5～9/9
	松江市立八雲学校給食センター	1	9/5～9/9
	松江市立東出雲学校給食センター	1	9/12～9/16
	島根県立中央病院	3	8/29～9/2
	社会福祉法人 隠岐共生学園 特別養護老人ホーム 静和園	1	8/29～9/2
	出雲市立出雲学校給食センター	3	9/12～9/16
	出雲市立平田学校給食センター	3	9/5～9/9
益田赤十字病院	2	9/12～9/16	

平成 28 年度 校外給食実務実習依頼先一覧

地区	実習依頼先	実習人員	日程
鳥取	鳥取赤十字病院	1	8/22～8/26
	米子市立学校給食センター	3	9/5～9/9
広島	社会医療法人 社団 沼南会 沼隈病院	1	8/29～9/2
山口	山口大学教育学部附属光小学校	1	9/12～9/16
	山口大学教育学部附属山口小学校	1	9/26～9/30
	社会福祉法人 うちうみ会 養護老人ホーム 寿海苑	1	8/22～8/26

(2) 保育学科の実習施設・機関との連携

保育学科では、「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実習Ⅱ」については、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について（厚生労働省雇児発第 1209001 号）」にもとづき、保育学科が実習施設を選定して実習指導委員会を設けている。毎学年度の始めに、この委員会の協議によって保育実習計画を策定している。

平成 28 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
保育所	島根県松江市	松江市立城東保育所、松江市立白湯保育所、しらとり保育所、しらゆり保育園、つわぶき保育園、つわぶきこども園、なかよし保育園、みどり保育所、愛恵保育園、ふたば古志原保育所、松江ナザレン保育園、松江保育所、松尾保育所、嵩見保育所、袖師保育所、虹の子保育園、法吉保育所、あおぞら保育園、ふたば第三保育所、なのはな保育園、錦新町保育園、わかたけ保育園、みのり黒田保育園、しらゆり千鳥保育園、みずうみ保育園	1 年前期・保育実習Ⅰ(保育所) 2 年前期・保育実習Ⅱ(保育所)
	島根県出雲市	出雲市立直江保育園、東部保育園、中部保育園、ハマナス保育園、神門保育園、荘原保育園、ひかり保育園、出東保育園、出西保育園、たちばな保育園、おおつか保育園、あすなる保育園、わにぶち保育所、出雲聖園マリア園、	
	島根県雲南市	雲南市立大東保育園、雲南市立かもめ保育園、雲南市立木次こども園、たちばら保育園	
	島根県安来市	安来市立安来保育所	
	島根県奥出雲町	阿井保育所	
	島根県大田市	大田市立温泉津保育所、サンチャイルド長久さわらび園、あゆみ保育園、相愛保育園	
	島根県益田市	神田保育園	
	島根県隠岐の島町	隠岐の島町立原田認定こども園、隠岐の島町立ごか保育園、隠岐共生学園第二保育所	
	鳥取県米子市	米子市立小鳩保育園、福米保育園、福生保育園	
	鳥取県境港市	境港市立あがりみち保育園	
	鳥取県鳥取市	鳥取市立富桑保育園	
	鳥取県琴浦町	みどり保育園	
	山口県岩国市	あさひ保育園	
	広島県三次市	三次市立三良坂保育所	
	香川県高松市	若葉保育園	
	徳島県阿南市	阿南市立桑野保育所	
	京都府京丹後市	京丹後市立久美浜保育所	
	三重県上浜島	上浜保育園	
	長崎県壱岐市	壱岐市立武生水保育所	
	鹿児島県霧島市	霧島市立高千穂保育園	

平成 28 年度 保育学科実習実施施設・機関

区分	所在	施設・機関名	備考
児童福祉施設等	島根県松江市 島根県出雲市 島根県安来市 島根県浜田市 島根県隠岐の島町 鳥取県米子市	島根県中央児童相談所、松江赤十字乳児院、双樹学院、島根東光学園、松江学園、東部島根医療福祉センター、国立病院機構松江医療センター、島根県立わかたけ学園、しののめ寮、授産センターよつば さざなみ学園、児童心理療育センターみらい 安来学園 聖喙寮、こくぶ学園 仁万の里児童部 米子聖園天使園	2 年前期・保育実習 I (施設)
幼稚園	島根県松江市 島根県安来市 島根県出雲市 島根県雲南市 島根県大田市 島根県益田市 鳥取県米子市 鳥取県北栄町 鳥取県鳥取市 山口県岩国市 広島県三次市 香川県高松市 徳島県阿南市 京都府舞鶴市 京都府京丹後市 鹿児島県霧島市	松江市立幼保園のぎ、松江市立しんじ幼保園、松江市立城西幼保園、松江市立古志原幼稚園、松江市立津田幼稚園、松江市立母衣幼稚園、松江市立中央幼稚園、松江市立大庭幼稚園、松江市立城北幼稚園、松江市佐太幼稚園、松江市講武幼稚園、松江市立忌部幼稚園、松江市八雲幼稚園、松江市立玉湯幼稚園、育英幼稚園 安来市立島田幼稚園、安来市立認定こども園荒島 出雲市立出東幼稚園、出雲市立東幼稚園、出雲市立荘原幼稚園、出雲市立中部幼稚園、出雲市立大津幼稚園、出雲市立高松幼稚園、出雲市立神門幼稚園 雲南市立大東幼稚園、雲南市立木次こども園、雲南市立加茂こども園 大田市立大田幼稚園、大田市立久手幼稚園 益田天使幼稚園 米子みどり幼稚園、東みずほ幼稚園 北栄町立大誠こども園 小さき花園幼稚園 認定こども園岩国東幼稚園 三次中央幼稚園 高松市立栗山幼稚園 阿南市立富岡幼稚園 シオン幼稚園 京丹後市立峰山幼稚園 高千穂幼稚園	2 年前期・後期・教育実習

この実習施設・機関により構成された実習指導委員会で策定された実習計画により、実習全体の方針、実習の段階、内容、施設別の期間、時間数、学生の数、実習前後の学習に対する指導方法、実習の記録、評価の方法が明らかにされている。

また、実習生、実習施設の指導者、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら実習の効果を十分発揮するように努めている。

「教育実習」については、原則的に実習指導委員会を設けるが、学生が自主的に地元等の実習幼稚園を選定する場合は個別に対応している。実習生、実習幼稚園の指導教員、本学実習担当教員が、それぞれ緊密に連絡をとりながら、実習の効果を十分発揮するように努めている。平成 28 年度に保育学科が連携して実習を実施した実習施設・機関は上の表のとおりであった。

6) 学生による地域貢献活動

(1) 学生の自主的なボランティア活動

平成 22 年度より、島根県立大学「学生地域ボランティア活動推進事業」の一環として、学生のボランティア保険加入を支援している。28 年度の学生のボランティア保険加入は、499 名。また学生の主な活動先は、以下のとおりであった。

- 災害ボランティア
くまもと GINGA-NET プロジェクト（熊本県益城町）
- 障がい者・高齢者支援ボランティア
「東部島根医療福祉センター」「松江医療センター」「島根県障がい者スポーツ大会」
「まるべりーパンまつり」「泉の園」「かんの里」「久米の家」「彩りテラス」ほか
- 障がい児支援ボランティア
「島根大学教育学部たんぼまつり」ほか
- 保育所・幼稚園・学童保育ボランティア
幼保園のぎ、みのり保育園、北陵幼稚園、比津ヶ丘保育園、市立乃木小学校ほか
- 松江市立湖南中学校 学習支援、図書館整備、環境整備
- 松江市国尾自治会
「夏祭り」「芋煮会」「秋のハゼ釣り大会」「くにっ子昔あそび会」「乃木文化祭」等
- 島根県立青少年の家 サン・レイク
- 国立三瓶青少年交流の家
- 第 93 回あしなが学生募金
- 島根県赤十字血液センター 献血啓発運動ボランティア
- 島根県立水泳プール「夏だ！遊ぼう！プール祭り」運営ボランティア
- 大田市山村留学センター「2016 夏の山村留学」学生リーダー
- 鳥取県「大山サマーキャンプ」「大山スキーキャンプ」学生リーダー
- 松江市保育所保護者連合会「子ども美術展」準備スタッフ
- 「第 23 回えびす・だいこく 100 km マラソン大会」運営スタッフ
- 「第 59 回松江玉造ハーフマラソン大会」運営スタッフ
- 「第 9 回ひらた 100 km 徒歩の旅」運営スタッフ
- 「松江シティフットボールクラブ」試合運営スタッフ
- 「2016 松江市環境フェスティバル スポーツ清掃大会」運営補助
- 「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」設立 10 周年記念イベント運営補助
- 「平成 29 年松江市成人式」運営ボランティア

この他、島根県内外の多くの地域イベントや保育園（所）・幼稚園、小学校、公民館などにおいて、個人でボランティア活動を行った。

【ボランティアサークル volcano の活動】

volcano のサークルとしての特徴は、卒業生との交流である。H28 年度のはじめに先立って、卒業生の呼びかけにより 3 月に大山合宿を行った。サークルの創設メンバーや二代目の部長らが、新たな部長と一緒にまちづくりに関わる場の見学や牧場での作業を行い、一年間サークルを運営するためのアドバイスなどを行った。



▲ボランティア報告会「あったかれっじ」の様子

そうして始まった平成 28 年度のボランティアサークル volcano (ぼるけーの) は、“人の想いや心に寄り添う”をテーマに、北野りんご園の作業と、浜乃木七丁目国尾自治会との連携活動を中心に行った。自治会との交流は 3 年目であり、夏祭りやとんど祭などの地域の交流行事への参加が定着してきた。

ボランティア報告会「あったかれっじ」は二度実施し、6 月には、東日本大震災および熊本大震災の復興活動に参加した学生らの報告、飛鳥祭には、国尾自治会の皆様を招き、volcano の活動について報告を行った。

平成 28 年度は、3 キャンパス合同学生ボランティア交流会のホスト校として松江キャンパスの学生が企画運営を行い、volcano の部員も参加した。また、7 月に林紗羅部長が「ボランティアサークル volcano 活動報告」として日頃の活動を報告し、11 月には島根県大田市のわさび農家において苗を植える作業のお手伝いをした。

H29 年 1 月には新部長である品川祐衣が卒業生との交流を行った。今後は卒業生も加えた活動を積極的に行っていく予定である。
(総合文化学科講師：山村桃子)

* 平成 28 年度 volcano の主な活動

- | | |
|-----------|---|
| H28 年 4 月 | 「チェコ生ピアノ NOVY 記念式典」
しまね多文化共生ネットワーク「山菜の会」 |
| 5 月 | 奥出雲町北野りんご園 (袋がけ) |
| 6 月 | 平成 28 年度 第 1 回あったかれっじ (学内報告会)
「全国丸型ポストサミット」
国尾自治会「スポーツ大会」 |
| 7 月 | 国尾自治会「ゲートボール大会」 |
| 8 月 | 国尾自治会「国尾夏祭り」・「防災訓練」 |
| 9 月 | 平成 28 年度 第 2 回あったかれっじ |
| 10 月 | 国尾自治会「芋煮会」・「乃木文化祭」・「秋のハゼ釣り大会」 |
| 11 月 | 奥出雲町北野りんご園 (摘果) |
| H29 年 1 月 | 国尾自治会「とんど祭」 |

【ティンホイッスル・サークルの活動】

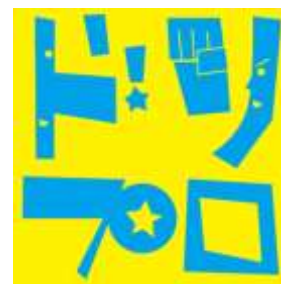
平成28年7月7日（木）オープンキャンパスでの演奏を行った。8月7日（日）出雲市で開催された「国際にぎわい市」ではアイルランドのクリスマスサンドと紅茶の屋台を出店し、演奏も行った。10月9日（日）松江ニューオーリンズ・フェスティバル2016実行委員会主催の「リトルマルディグラ」のパレードとステージでの演奏に参加。10月30日（日）「松江ハロウィン」のパレードに参加。11月13日（日）出雲市で開催された「多文化にぎわい交流広場」では屋台を出店し、ステージで演奏も行った。12月3日（土）鳥取県琴浦町のカウベルホールで行われた「小泉八雲とアイルランド音楽の夕べ」で、山陰日本アイルランド協会のアイリッシュバンド「Ceol agus Craic」の演奏に参加した。

平成29年3月11日（土）・12日（日）に開催されたアイリッシュ・フェスティバル in 松江2017のセント・パトリックス・デイ・パレードで演奏を披露しながらパレードに参加するとともに、アイリッシュ・パブ「シャムロック」で手伝いや演奏、屋台村で設営等、イベントのボランティア・スタッフとして協力した。

音楽の演奏や屋台での参加をすることで、イベントを楽しみながら国際交流やアイルランド文化の紹介を行っている。

(2) キラキラドリームプロジェクト

キラキラドリームプロジェクトは、学生が企画する独創的なプロジェクトに対して、大学が費用を補助し学生の夢の実現を応援している。学生の自主性・積極性・創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、好きになれるものを見つける機会となり、より充実した学生生活を送ってもらうことを目的として平成25年度から始めた。今年度は2組の団体が公開審査会でプレゼンテーションを行い、全事業が採択された。



5月に行う募集説明会后、エントリーを希望する学生は、企画の発想法、商品化のプロセス、顧客ターゲットと商品コンセプト、企画書の作り方等を勉強会で学ぶ。また、各グループには指導教員が付き、企画立案と実行のサポートを行う。学生だけの力で実現できない場合、行政、地域の団体、民間企業とマッチングを行い、支援をいただきながら活動を行っている。企画の多くが、地域問題を解決したり、地域活性化を目指したりする企画で、学生のヒラメキが地域のキラメキになっている。1年間の活動の後、この事業をきっかけにサークル化し活動を継続する団体が多くみられる。

（地域連携課 キャリアアドバイザー：中村和可子）

● 公開審査会の様子

	
<p>プレゼンテーションに向けて、入念な準備をして挑みます。会場は熱気に包まれ、真剣そのもの。</p>	<p>プレゼンテーションの方法は自由。自分たちの想いを伝えるために工夫をこらす。動画をつくってPRしたチームも。</p>
	
<p>審査委員からは鋭い指摘と温かいアドバイスを頂く。</p>	<p>自分たちの夢を語り、全てを出し切った後の安ど感で思わず笑みがこぼれる。</p>

● 平成 28 年度採択プロジェクト（2 団体）

✓ ドリーム枠（採択額 22.5 万円）

TYD スクール「Learning from war ～戦争について知ろう～」

～他国の人と交流しながら戦争について語り合おう～



この企画の目的は、自分の国ではない他国から見た戦争観について様々な国の人を知ってもらうことです。内容は外国の方と戦争について話し合うというものです。5カ国それぞれ3人ぐらいでグループになってもらい、何度か集会や学習などをして、それぞれの国でどんなふうに戦争が語られてきたかを話し合ってもらいます。授業の一環として広島に行き、平和記念資料館や平和公園

などを見て回り、被爆された方のお話を聞きます。その後、広島に行った感想や、何か考えが変わったなどを話し合う事後学習の機会を何度か設けます。そして、その感想や学んだ内容をまとめたものを発表し、この企画に参加していない人にも知ってもらう機会を設けます。

活動紹介（ドリプロ報告書より）

■ プロジェクト発案の理由

昔からずっと、みんな戦争の悲惨さを知っているはずなのになぜ戦争はなくなるのかと疑問に思っていました。この疑問を解消するには、みんなが戦争についてもう一度きちんと考えなくてはならないと考えました。戦争について考えるといっても、一つの国で語られている戦争についてだけを学んでも意味がありません。そこで、国際化が進んできた今だからこそ、様々な国の人と一緒に、それぞれの国で語られている戦争について勉強していったらどうかと考えました。そうすることで初めて戦争について本当に理解したといえるのではないかと考えたのです。そこで私たちは、戦争について様々な国の方と一緒に勉強していく、このプロジェクトを発案しました。

■ プロジェクトの目的

いろいろな国の方々と戦争について学び考え、意見交換をすることで、多様な角度からの戦争のとらえ方を知り、自国だけの戦争学習より多様な考えを身に着けること。そしてそれにより自国では学べない戦争の悲惨さを知り、相手の立場に立って戦争を考えられるようになること。そしてそこから、戦争をなくすにはどうすればよいかを考えること。

■ 活動内容

日付	活動	場所・会場
8月10日	宣伝のためのチラシ作り	島根県立大学短期大学部
9月	広報のお願い	島根大学・松江市の国際観光課・しまね国際センター・島根県立大学浜田キャンパス・高専
10月	協力者募集	島根大学
26日	協力者と打ち合わせ	島根県立大学短期大学部
11月17日	第一回勉強会〔準備〕	島根県立大学短期大学部
23日	第一回勉強会	島根県立大学短期大学部
12月6日	第二回勉強会〔準備〕	島根県立大学短期大学部
11日	しまね大交流会参加	松江くにびきメッセ 大展示場
17日	第二回勉強会	島根県立大学短期大学部
2月19日	広島訪問	広島平和記念資料館・平和記念公園

島根大学、松江市の国際観光課、しまね国際センターへ直接訪問し、参加者募集にあたり広報のお願いをしたり、アドバイスをいただいたりしました。

島根大学、松江市の国際観光課、しまね国際センターへ直接訪問し、募集のためのチラシの広報をお願いに行きました。

いただいたアドバイスをもとに、勉強会を全10回から全5回と変更し、それぞれの内容を、続けて参加しなくても一回だけの参加でも内容が分かるようなものに変更しました。そして、島根大学の国際交流サークルの協力を得て、準備の段階から留学生の方に加わっていただきました。

上記の活動実績のように勉強会や広島訪問を行いました。開催にあたっては、島根県立大学浜田キャン



▲参加者募集チラシ第一版

パス、島根大学、松江高専の留学生をはじめ、県短生、そして12月のしまね大交流会で知り合った企業の方なども参加してくださり、多様な視点や意見をいただくことができました。

■ 活動を通して分かったこと

<第一回勉強会(教科書を比べてみて)>

各国の教科書は、自国の汚点は子どもへ伝えたくないという思いや、戦争の被害による敵国への恨みなどを持ちながら作られたので、それぞれの国によって同じ出来事でも伝え方が違う。いわれたことをそのままのみにするのではなく、自分できちんと調べてから判断をしなくてはならない。

<第二回勉強会(ドキュメンタリーを比べてみて)>

- ・ 第一回の教科書と同様に、国自体が伝えたいことと伝えたくないことを思って、ドキュメンタリーを作っている。
- ・ 原爆についての考えが国ごとで違うこと。
- ・ この国はこう考えると思いつまず、実際にその国の人と話してみて、メディアが伝えていない部分も自分の目で見ることが大切だということ。

<広島研修>

- ・ 戦争をなくすためには、法律や平和条約を作り、兵器を持つたり作ったり準備することを全人類が一丸となって注意しやめさせるべき。
- ・ 戦争の多くの原因はリーダーの力関係にある。そのため、力のある国がまず持っている核を処分することで世界から核がなくなる。
- ・ 平和のためにはもめごとが出てくるたびに、争いではなく話し合いをすべき。
- ・ 戦争では、人類だけでなく自然やほかの生物にも被害が出てしまう。平和は全人類の責任である。
- ・ 自分のほしいもののために戦争をしてもよいと思う人はどの時代にもいる。そのため、どの国も高いセキュリティを持ち、高い生活水準で生活しなくてはならない。

■ 感想

この活動を通して自分自身も戦争についての考えが大変深まり、この活動をする前より、戦争についてもっと学ばなければならない、もっと多くの人と戦争について考えていかなければならないと思うようになりました。活動を進めていく中で、準備や進行を考えすぎて、なぜこの活動をしようと思ったのかという目的を忘れそうになることがありました。教科書の違いを知ってもらうのが目的ではなく、そこからなぜ違いが生まれるのかを考え、どうすれば世界中が戦争をしなくなるのかを考えるのが本来の目的です。準備をしていく中で、本来の目的が分からなくなることがありましたが、その時は、お互い相談しあい本来の目的は何かを思い出しながら活動を進めてきました。

内容を一から考え、それをもとにチラシを作り協力者や参加者を集め、勉強会の内容や進行を考え実行していくのは、今まで経験したことがなく、うまくいかないこと、反省することが多くありました。そのたびに多くの方に助けていただき、多くのアドバイスをいただきました。ありがとうございました。そしてこれらの経験やアドバイスが、私たちの来年度からの活動をよりよくするための材料になると思います。

今回この活動に参加してくださった方々には、その時の学習で満足せず、これをきっかけに戦争について考え行動して欲しいと思います。

■ 今後について

今年度限りの活動では、また戦争のことが忘れられていってしまうと思っています。継続して戦争について考えることが大切です。そのため今回の活動のまとめを作り配布し、来年度以降もこの活動をサークルという形をとり、続けていきたいと思います。今回の活動では、準備不足や期間が足りなかったために、実現できなかった計画がいくつもあり、悔いが残った面もあります。来年度からはそれらを実際に行っていき、今年度よりもさらに深く多くの方と一緒に戦争について学んでいきたいと思っています。

✓ ドリーム枠（採択額 22.5 万円）

MPV 制作委員会「プロジェクト D」

～松江のPVは意外と少ない？ なら作っちゃえ！！～



松江をアピールする映像（MPV）。企画、構成から撮影、編集まで全てを短大生が実行?! 私たちにしかできないPVを作り、松江をもっとよくしたい! 松江市の観光に貢献します。

活動紹介（ドリプロ報告書より）

■ プロジェクトの目的

松江市には、たくさんの観光地が存在しているのに、それらを宣伝するための観光プロモーションビデオ（以降「PV」と表記）がないと気づいた。そこで私たちがPVを作成し、松江の魅力を知ってもらい、観光を盛り上げようと思った。

■ 活動内容

8～9月にかけて、松江市産業観光部長 矢野さんや、玉作り温泉まちデコ社長 角さんから、行政の立場からの意見や、PVの方向性についてアドバイスを受けた。また、動画作成にあたり企画のポイントや、撮影の仕方、カメラワークなどをシネマトグラファー荒木さん教わるところから開始。そのほか各方面からのアドバイスも参考にしながら、松江城周辺をアピールすることに決め、チームメンバーで動画作成の目標、対象、役割分担等を決めた。

10月に撮影開始。堀川小町、へるんの小径、松江城、堀川遊覧船、レイクラインの撮影を4日間に分けて撮影した。撮影にあたっては松江市の担当課にもご協力をいただいた。

12月に開催されたオールしまね大交流会（COC+）に4名参加。大人の方の意見を頂き、大変参考になった。また、松江市の観光イメージや、鳥根県に関するアンケートも収集し、今後の動画作りの参考にした。下記はアンケートの回答結果の一部である。

島根県の観光地として認知度が高いものは出雲大社であるという結果になった。
松江といえば、という質問に対しては宍道湖という回答が多くみられた。
面白い回答では、駅の近くにイオンがあるのが珍しいというものがあった。

2月に動画が完成し、YouTubeなどに動画をアップした。

■ 実績

YouTubeに「松江女子旅！」2017年2月15日に動画を公開（41秒）

動画のコンセプト：県外に住む女子大学生

再生回数 101回を獲得（2017年2月28日現在）

・広報活動 Facebook <https://www.facebook.com/mpv.doripuro/> Twitter アカウント@mpvkentan

■ 成果および感想

（K）失敗と成功から収穫を得た。

「松江の魅力のアピールする動画を自分たちで作り上げたい」この目標に納得できるものを形にすることができなかつたです。地域の魅力、文化を知ること、ここから始めなければなりませんでした。なぜなら、僕は松江のことを知った気になっていたからです。短い動画に自分たちがアピールしたいところを盛り込むには、なぜ、そこに価値があって、魅力があると思うのか、本質から理解していなければなりませんでした。そのために実際に自分たちで松江めぐりをすることはもちろん、大人の方の考えもヒアリングをしました。本プロジェクト採択前に立てたスケジュール計画は何の役も立たず、多くの意見が聞けるようにと多く集まってもらったメンバーには、全員を活かす方法を考えることに頭のメモリを使っていた気がします。自分の無力さを実感しました。

しかし、前向きな収穫もたくさんあり、とくにこの活動をしたという後輩が現れた事がうれしく感じます。もとは「松江にPVが少ないから自分たちで増やそう」と始まったプロジェクトにとって、継続して増やし続けられる環境に足が掛かったという事だけでも、やってよかったと感じました。卒業したあとにもこの活動を続けてくれる後輩を応援し、松江と一緒に盛り上げていきたいと思います。

（K）みんなで創り上げる楽しさと難しさを知った。

ドリプロに参加するのは2回目でしたが、前は商品開発の2弾で先輩たちのものを引き継ぐ形でドリプロに参加しました。今回はゼロから自分たちで作る、形にするのということで試行錯誤しました。とくに、人数が多く全員が協力することが難しかったです。

今回のドリプロでは、松江の良さを広められたというよりは人を動かす大変さを思い知りました。自分の、未熟さがわかったドリプロでした。動画は正直納得のいくものにできなかったのですが、この動画を後輩たちが少しでも後に続けてくれればよいなと思いました。

（I）松江の人と文化の良さを知ることができた。

今回このプロジェクトに参加したことで、松江の良さに気付くことができました。撮影で松江の観光地をめぐる中で、松江にも着物を借りて城下町を歩くことができる場所があることを初めて知りました。また、撮影の中で着物を着ていた私たちの姿を見て、ほかの観光客の方を着物を借りて来られたことを知り、

とても嬉しく感じました。今回の動画を作るにあたり、観光地をはじめとする地元の方々と触れ合う中で、私たちの撮影がしやすいようにサポートしていただき、松江の人の温かさを改めて実感することができました。

(K) たくさんの方の協力で撮影を楽しむことができた。

私は出雲出身ということもあり、松江の魅力を新鮮に感じることができました。普段着ない着物を着て、普段なかなか歩かない松江城周辺を散策し、観光客気分楽しく撮影することができました。動画1つ作成するのにも、たくさんの人の協力が必要になるということも学ぶことができました。

(K) 松江が大好き！

私は松江が好きなので、今回ドリプロに参加できてとても良かったと思っています。いざ松江のPVの候補地を考えると、松江は自分が思っているよりも紹介したいところがあって改めて松江の魅力を感じました。PVの撮影は松江城周辺でしたが、松江城は本当に絵になるなと思いました。着物を着ての撮影中、私たちを見て、堀川小町で着物をレンタルした観光客がいて小さなことかも知れませんが、自分たちが松江観光の楽しみ方を伝えることができよかったです。

(K) 貴重な経験ができたのがよかった。

私は短大入学後、約一年間松江に住んでいました。しかし、普段何気なく暮らしているだけでは、松江の魅力に十分に気付いていなかったと思います。外部の人に魅力を伝えるために、改めて自分達で松江について知ることができてよかったです。地域のために活動している人と話す機会があったり、着物を着て城下町を歩いたり楽しく貴重な経験ができました。

(S) この事業に関われてよかった。

今回ドリプロに参加してとても勉強になりました。PVを作る上で、松江の観光に携わる人の意見を聞きました。そのおかげで松江の良さのアピールの仕方を勉強することができました。みんなで意見を共有しながら一つのものを作っていきの良さを知ることができてよかったです。迷惑ばかりかけましたが、少しでもこのPV制作に携わることができて良かったです。

(S) 松江の新しい魅力を発見できた。

松江の観光地は大分知っているつもりでしたが、今回のプロジェクトに参加して知らなかった松江の魅力が、次々に出てきて驚いています。松江の観光地は、女子旅に、デートに、家族旅行に、老夫婦のちょい旅に、若い人からお年寄りまで楽しめる最高の場所です。新しく松江の魅力を発見することができ、とても楽しかったです！就職で私は県外に出ますが、歳を取ったときに、そういえばこんな所に行ったな、と思いだしてまた松江を訪れたいと思います！

(D) 普段できない経験が勉強になった。

私は20年間松江に住んでいますが、松江の魅力について考えたことはありませんでした。しかし、このプロジェクトで心を惹かれる場所を再確認できました。

松江市の観光を短時間で動画にすることは難しかったですが、仲間と協力して話し合ったり、撮影した

り普段できないことを経験できました。撮影するにあたって大人の方と話す機会が増え、撮影のテクニックや松江の観光をどうやって伝えていくのかを勉強することができました。動画を1つ作るのも大変でしたが、新しい発見もあり楽しく活動することができました。

(M) 松江を元気にしたいというみんなの気持ちに触れられた。

キラキラドリームプロジェクトを通して学んだことがたくさんありました。私はこういうことをするのが初めてだったので、最初は不安もありました。でも、みんなで何かを創り上げるという楽しみもありました。半々の気持ちで始めた活動は、苦労したこともありましたが、プロジェクトの仲間や地域の方と話すことができ、最後は達成感を味わうことができました。また、松江を元気にし、有名にしたい、という気持ちは皆一緒なのだと感じました。この活動は私の学生生活の中でとても思い出に残る、良い経験となりました。

(Y) 自分の知らない魅力を知れた。

松江のことはだいたいわかっているつもりでしたが、案外、自分の知らないことや、場所がたくさんありました。活動の中では松江の魅力やその地の人の温かさを改めて実感することができ、とても良かったです。

また企画、撮影にとっても大変でしたが、みんなと同じ目標に向かって一つのことをやり遂げたことで達成感を感じました。このプロジェクトに参加して本当によかったです。

■ 今後について

現在、松江の和菓子をテーマにした第二弾も作成中。

松江の魅力を発信したい、松江を元気にしたい！という学生が継続して活動していけるために、サークル化を考えている。学生が地域の魅力を考え、地域の人と関わることで、松江市の観光やまちづくりに興味を持ってもらいたい。

PVも数が多くなってくると、県外の人がしげんと情報に触れる機会が増えると期待している。

7) おはなしレストランライブラリーの地域連携活動



▲小泉八雲記念館で怪談絵本の読み聞かせ

「読み聞かせの実践」は、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の学生計 75 名が受講し、幼保園のぎ、乃木小学校で読み聞かせの活動を活発に行った。地域の要望に応じて行う「出前シェフ」の活動では、小泉八雲記念館との初の共同企画として、八雲記念館において怪談絵本の読み聞かせを行った。八雲の代表作『雪女』をはじめとして、八雲にちなんだクイズなども取り入れながら、観光客の方々と怪談絵本を満喫した。



▲わらべうた「ゆりかご」の風景

おはなしレストランライブラリーでの取り組みが多様化したのも本年度の特徴である。これまで続けてきた学生による読み聞かせのほか、絵本と音楽を融合した催し「音のレストラン」（本学保育学科梶間講師）、わらべうたを中心とした取り組み「ゆりかご」（本学非常勤岡本・岩田講師）の時間など、親子で楽しむ機会が増えた。

ライブラリーの利用も学外からの来館者を中心に年々増え続けている。

平成 28 年度 おはなしレストランの
読み聞かせ活動

- ◆松江市立幼保園のぎ：参加学生 75 名
- ◆松江市立乃木小学校：参加学生 75 名
- ◆松江市立忌部小学校：参加学生 10 名
- ◆ライブラリー：参加学生 10 名
- ◆出前シェフ：参加学生 10 名

おはなしレストランライブラリー
月平均の来館者人数・貸出冊数

(平成 28 年 4 月～平成 29 年 2 月)
学内：来館者 316 人、貸出 376 冊
学外：来館者 1,337 人、貸出 5,553 冊

平成28年度公開講座「椿の道アカデミー」開催状況

No	講座名	開催日	講師	受講者数	
1	総合文化講座（全8回）	言葉に関するちょっとした面白い話-似ているようで異なる日本語と韓国語のくらべ-	6月1日	鄭 世桓（浜田キャンパス講師）	64
		変質したのか？日本人の“普遍的な価値観”と社会動向-TVドラマ「下町ロケット」に見る常識感-	6月8日	瓜生 忠久（浜田キャンパス教授）	54
		ハンナ・アーレントとアメリカ	6月22日	村井 洋（浜田キャンパス教授）	47
		インドネシアの今を衣服から知る	7月13日	塩谷 もも	40
		小泉八雲の文化資源的変遷	7月27日	工藤 泰子	46
		天変の文化史-江戸時代の天文学とフォークロア-	9月28日	杉 岳志	40
		明治のことは	10月12日	高橋 純	40
		地域資源としての怪談文学-「勝五郎再生譚」「幽霊滝」「雪女」をめぐって-	10月26日	小泉 凡	50
2	大人のための源氏物語-夕霧の恋を読む-（全6回）	6月1日～11月15日	三保 サト子（本学名誉教授）	404	
3	-出雲国風土記の語る-古代出雲人（びと）の信仰世界-（全5回）	出雲の神社と特徴的な神社の解説その1（意宇・嶋根・秋鹿の3郡）	6月17日	藤岡 大拙（元本学学長）	64
		出雲の神社と特徴的な神社の解説その2（楯縫・出雲の2郡）	7月29日		81
		出雲の神社と特徴的な神社の解説その3（神門・飯石・仁多・大原の4郡）	8月19日		53
		出雲の聖地「杵築埼」について	9月16日		70
		出雲の寺院、霊山等（新造院。神名火山など）	9月30日		70
4	椿の道読書会（全9回）	5月16日～1月16日	北井 由香	121	
5	インターネットを使った効果的な英語学習（全3回）	6月17日～7月1日	ラング クリス	24	
6	学校を卒業した人のための「保育と教育の社会学」（全4回）	「保育と教育の社会学」への招待	10月4日	矢島 毅昌	2
		心と身体「学校的社会学」	10月11日		2
		「学校化社会」における保育と教育	10月18日		3
		今だからわかる「文化としての学校」	10月25日		3
7	英語絵本の音読と「英語多読」に挑戦（全4回）	7月20日～8月31日	小玉 容子	18	
8	健康栄養講座:健康とアンチエイジング～華麗な人生をおくるため～（全5回）	寿命に影響する要因	8月9日	直良 博之	7
		加齢とからだの老化	8月23日	安藤 彰朗	8
		お口とアンチエイジング	9月2日	佐藤 公子（出雲キャンパス教授）	7
		食とアンチエイジング	9月12日	名和田 清子	4
		運動とアンチエイジング	9月27日	酒元 誠治	8
9	栄養士のためのステップアップ講座（全12回）	7月13日～12月21日	健康栄養学科教員	55	
10	山陰民俗学会連携講座：民俗の行方～山陰のフィールドから考える～Part4（全4回）	伝染病の流行と民間信仰	7月23日	喜多村 理子（鳥取短期大学非常勤講師）	11
		豊作を祈り、収穫を祝う祭りの現状と伝承～大田市周辺地域の事例から～	7月30日	多田 房明（大田市鳥井小学校長）	11
		島根におけるオコナイ行事の特色と現在-関西との比較から-	8月20日	中野 洋平（島根大学地域未来戦略センター助教）	12
		出雲地方の祭祀習俗	8月27日	浅沼 政誌（島根県教育庁文化財課企画幹）	14
11	民族音楽の楽しみ:ガムラン教室（全12回）	5月7日～11月5日	瀬古 康雄（本学元教授）	93	
12	案外知っているようで知らない「人」の話3-社会・応用編（全3回）	8月20日～9月10日	飯塚 由美	39	
13	文化資源探求講座	新小泉八雲記念館探訪ツアー	8月19日	小泉 凡	23
		「石見銀山と縄文の埋没林」を訪ねる	11月3日	岡部 康幸（NPO法人出雲学研究所会員）・小泉 凡	30
14	島根県産農畜産物を用いた食品の生産および加工の実践（全3回）	島根県産農畜産物の生産とそれを用いた食品開発の現状	2月23日	赤浦 和之・籠橋 有紀子	1
		島根県産西条ガキを用いた食品開発と実践	3月2日	赤浦 和之	2
		島根県産出西生姜およびしまね和牛を用いた食品開発と実践	3月9日	籠橋 有紀子	1
			延（人）	1622	

平成28年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	奥出雲町	平成28年度第1回奥出雲町食育推進委員会 研修 「朝食の必要性和今年度の奥出雲町の食育推進について」 参加者：食育推進委員会委員15名及び事務局8名、他3名	平成28年6月29日
2		公益社団法人島根県栄養士会	平成28年度島根県栄養士会生涯教育 基本研修 「栄養ケアプロセス-地域連携-」参加者：島根県栄養士会会員50名	平成28年7月10日
3		雲南保健所	平成28年度炎症性腸炎患者・家族学習会（雲南地区 ほたるの会）講演 「外食のポイント」及び調理実習「一簡単！おいしい！楽しい♪ 秋の食材を使ったやさしい料理」参加者：患者家族4名、保健師等4名	平成28年10月2日
4		松江市	いきいき健康コース 第12回（全14回） 「骨と血管のための食事」参加者：60名	平成28年12月8日
5		公益社団法人島根県栄養士会及び松江地区会	平成28年度島根県栄養士会生涯教育 実務研修 「骨粗鬆症について」参加者：島根県栄養士会会員30名	平成28年12月10日
6		飛び出せ!!出雲糖尿病療養指導フォーラム実行委員会	飛び出せ!!出雲糖尿病療養指導フォーラム 講演 「知って納得！ 食事療法」参加者：糖尿病療養指導に関わる専門職30名	平成28年12月14日
7		公益社団法人日本栄養士会	平成28年度研究教育事業部中国・四国ブロック研修会 「平成27年度研究教育事業部全国リーダー研修会報告および研究教育事業部事業について」 参加者29名	平成28年12月18日
8		出雲保健所	平成28年度炎症性腸炎患者・家族学習会（出雲地区）講演 「体調不良時の食事の工夫」及び調理実習「ひなまつり」参加者：患者家族27名、保健師等6名	平成28年2月26日
9	籠橋 有紀子（健康栄養学科准教授）	島根県農産園芸課	全国つや姫フォーラム シンポジウム「島根県産米の特性分析」	平成28年7月29日
10	山下 由紀恵（保育学科教授）	川本町保育研究会	平成28年度川本町保育研究会研修講師「川本町の子どもの発達について」	平成28年5月14日
11		島根県健康福祉部	平成28年度市町村職員等専門研修（児童福祉司任用資格認定講習会）講師 「母子関係理論と発達心理学」	平成28年8月8日 平成28年8月30日
12		ソニー幼児教育支援プログラム「科学する心」島根自主研修会	平成28年度研修講師「科学する心を育てる生活と遊び」	平成28年9月3日
13		福井 一尊（保育学科准教授）	松江市小学校図画工作部会	小学校教諭対象研修会「図画工作科における造形あそびの意義と評価」
14	松江市保育研究会	松江市保育研究会	子どもと造形表現	平成28年9月6日
15		大田市民営保育所協議会	子どもが表現すること	平成28年9月9日
16		島根県保育所（園）・幼稚園造形教育研究会	望ましい子どもの描画作品について（作品審査会）	平成28年11月25日
17		島根県社会福祉協議会	「島根県障がい者アート作品展」審査委員長（職員研修会を含む）	平成28年11月30日
18		松江市保育研究会	立体作品・壁面作品の展示方法について	平成28年12月9日
19	藤原 映久（保育学科准教授）	邑智郡保育研究会	主任保育士研修会 講師 演題：主任保育士として求められる役割	平成28年6月9日
20		島根CAP	2016年島根CAP連絡会 講演 演題：アタッチメント形成の視点からCAPの役割を考える	平成28年9月4日
21		島根県社会福祉協議会	平成28年度放課後児童支援員認定資格研修 講師 演題：子ども家庭福祉施策と放課後児童クラブ	平成28年9月6日 平成28年10月23日
22		松江市赤十字乳児院	第61回中国・四国地区乳児院研究協議会 講師 演題：子どもの応援団を作ろう～連携に基づくよりよい支援をめざして～	平成28年9月8日
23		松江地区里親会	平成28年度松江地区・出雲地区里親会合同研修会及び里親交流会 講師 演題：子育ての知恵について～H-MPOを使って知恵集め～	平成28年9月14日
24		島根県健康福祉部	平成28年度 島根県市町村職員等専門研修会（児童福祉司任用資格認定講習会）講師 演題：児童福祉論～児童をとりまく今日的動向～	平成28年9月16日 平成28年9月21日
25		島根県社会福祉協議会	平成28年度放課後児童支援員認定資格研修 講師 演題：特に配慮を必要とする子どもの理解	平成28年9月20日 平成28年10月16日
26		松江赤十字乳児院	養育を考える会 助言者	平成28年5月31日 平成28年11月30日
27		鳥取県児童館連絡協議会	2016年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師 演題：児童館の機能と役割	平成28年12月9日
28		島根県児童福祉施設児童処遇研究協議会	平成28年度島根県児童福祉施設職員合同研修会 講師 演題：児童養護施設における「参加者中心型プログラム」の試み～安心・安全な施設環境の構築を目指して～	平成28年12月12日
29		鳥取県児童館連絡協議会	2016年度 鳥取県児童館連絡協議会職員研修会 講師 演題：集団援助活動	平成29年1月26日
30		島根県中央児童相談所	平成28年度児童虐待対応職員専門性向上研修会 講師 及び シンポジウムのコーディネーター 演題：児童養護施設における児童間暴力の予防への取り組み	平成29年2月27日
31		邑南町	邑南町「子どもの心を考える会」研修会 講師 演題：子どもの育ちを支える～子どもの応援団をめざして～	平成29年3月3日
32		矢島 毅昌（保育学科准教授）	子どもの心育てる造形の会	春期研修会講師 講演タイトル：子どもの「できる」をどう見るか？～能力・成果とは何かを考える～
33	岩田 英作（総合文化学科教授）	独立行政法人国立病院機構全国保育士協議会	平成28年度第1回中・四国支部研修・学習会「絵本の読み聞かせについて」	平成28年9月11日
34		社会福祉法人島根県社会福祉協議会	平成28年度子育て支援担当者研修「絵本の選び方・読み方」	平成28年9月29日
35		兵庫県教育委員会	ひょうご子ども読書活動推進フォーラム阪神・丹波地区フォーラム「読み聞かせについて」	平成28年10月2日
36		大阪府教育庁市町村教育室	平成28年度大阪子ども読書活動推進ネットワークフォーラム事業地区別研修「読みメンになろう！家族で本を楽しもう！」	平成28年11月3日
37	小泉 凡（総合文化学科教授）	山陰中央新報社「山陰ぶらんち会」	山陰ぶらんち会平成28年度第1回例会 「未来に生かす小泉八雲～小泉八雲記念館リニューアル・オープンを前にして～」	平成28年5月24日
38		一般財団法人島根県松江地区建設業協会	平成28年度安全大会 「小泉八雲を未来に生かす」	平成28年7月8日
39		朝日カルチャーセンター湘南	「小泉八雲と水木しげるの世界～響きあう妖怪観をめぐって～」	平成28年7月9日
40		焼津小泉八雲記念館	怪談談義Part2 「水木しげると小泉八雲の響きあう世界」	平成28年7月31日
41		全国商業教育研究大会実行委員会	第64回全国商業教育研究大会（島根大会）記念講演 「地域資源の創造的活用を考える～小泉八雲と怪談を活かす試み～」	平成28年8月4日
42		全国神社保育団体連合会	設立65周年大会記念講演 「『小泉八雲』を現代に活かす」	平成28年8月20日
43		第23回BeSeTo演劇祭実行委員会	シンポジウム基調講演 「異界と人間を考える～水木しげると小泉八雲の世界から～」	平成28年8月27日
44		NPO法人全日本語ネットワーク	第13回全日本語の祭り 「小泉八雲と語りの世界」	平成28年9月4日
45		松江怪談談義実行委員会	松江怪談談義「怪談のふるさと松江で語る小泉八雲」における講演	平成28年10月7日

平成28年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

1 講演会講師等

NO.	教員名	依頼先	内容（テーマ等）	日付
46	小泉 凡（総合文化学科教授）	横浜ロータリークラブ	横浜ロータリークラブ例会卓話 「小泉八雲から現代を考えるーオープン・マインドと五感力ー」	平成28年10月11日
47		山陰網膜色素変性症協会	山陰網膜色素変性症協会中四国リーダー研修会講演 「ラフカディオ・ハーンと語りの世界」	平成28年10月21日
48		株式会社グローバルユース ビューロー	文化講演会 「小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）と彼を魅了した日本」	平成28年10月21日
49		十文字学園女子大学	桐華祭講演会・シンポジウム 「小泉八雲と地域づくり・人づくり」	平成28年10月22日
50		名古屋工業大学	「名古屋の八雲、八雲の名古屋」記念講演 「小泉八雲を現代に活かす」	平成28年11月5日
51		愛知県田原市教育委員会	田原市図書館ふしぎ文学半島プロジェクト2016 トークライブ 「怪談とまちづくり～ふしぎな言い伝えのチカラ～」	平成28年11月5日
52		松江市立中央図書館	松江市立中央図書館開館30周年記念トーク 「小泉八雲と図書館」	平成28年11月19日
53		京都造形芸術大学	公開講座「小泉八雲、民話をめぐる旅」 「松江からみる、世界のラフカディオ・ハーン」	平成28年11月20日
54		島根大学	島大ミュージアム学 講師 「文化資源としての小泉八雲とハーン・ミュージアム」	平成28年11月25日
55		神在月まつえ文化・観光月間実行委員会	小泉八雲朗読のタベ「転生」における講演	平成28年11月26日
56		NPO法人松江音楽協会	プラハホール開館30周年記念オルガン・リサイタル 小泉八雲作品朗読「神々の国の首都より『東えいの夢』」	平成28年12月17日
57		松江市立中央図書館	平成28年度「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「小泉八雲と輪廻転生の物語～「勝五郎の再生」をめぐる～」	平成28年12月24日
58		まつえ観光アカデミー	松江のスキルアップ講座 「小泉八雲と現代ー松江からみる世界のハーンー」	平成29年1月17日
59		神戸学院大学	神戸学院大学図書館書籍テーマ講演会 「小泉八雲ーオープン・マインドでみた日本ー」	平成29年1月20日
60		空の旅人舎（滋賀大学・彦根観光協会）	彦根ゴーストツアー講演 「怪談と結界」	平成29年1月28日
61		松江観光協会	平成28年度松江観光ボランティアガイド養成講座講師 「松江からみる世界の小泉八雲」	平成29年2月14日
62		まつえ市民大学	平成28年度まつえ市民大学修了式記念講演 「小泉八雲を現代に活かすー「オープン・マインド」の発信と小泉八雲記念館の役割ー」	平成29年2月18日
63		鳥取県大山町教育委員会	いさい踊り保存会20周年記念講演会 「地域資源としての作家と文学ー小泉八雲といさい踊りをめぐってー」	平成29年2月25日
64		鳥取県立図書館	平成28年度国際交流ライブラリー講演会 「小泉八雲ー開かれた精神の軌跡を辿るー」	平成29年2月26日
65		彦根商工会議所	小泉八雲朗読のタベ「望郷」におけるトーク	平成29年3月4日
66	愛知大学	愛知大学総合郷土研究所シンポジウム基調講演 「地域資源としてのふしぎ文学ー小泉八雲と怪談の活用をめぐる～」	平成29年3月18日	
67	マヌー あき（総合文化学科教授）	社会福祉法人島根県社会福祉協議会	平成28年度子育て支援担当者研修会 「絵本の選び方・読み方」 講義・演習	平成28年9月13日
68	工藤 泰子（総合文化学科准教授）	松江市立女子高等学校	PTA総会講演会講師 「松江観光の活性化に向けてー教育の現場から」	平成28年5月14日
69		松江市史料編纂室	松江市史講座講師「戦後復興期における松江の観光振興」	平成28年9月17日
70		松江市立図書館	講座「小泉八雲に学び・親しむ」講師 「国際文化観光都市と小泉八雲」	平成28年3月25日

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱（依頼）先	役職名	期間
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県	松江圏域健康長寿しまね推進会議 「食」の分科会 座長	平成16年4月～
2		島根県	島根県食育・食の安全推進協議会委員	平成19年4月～
3		島根県	島根県健康長寿しまね推進会議 委員	平成17年4月～
4		島根県	島根県環境農業推進協議会 副委員長	平成19年4月～
5		島根県	島根県糖尿病専門委員会 委員	平成19年4月～
6		島根県	島根県中山間地域等進行対策検討委員会 委員	平成22年4月～
7		雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託評価委員会 委員長	平成24年4月～
8		公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 理事	平成24年5月～
9		公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会生涯教育委員長	平成26年4月～
10		公益社団法人島根県学校給食会	公益社団法人島根県学校給食会 評議員	平成24年6月～
11		公益社団法人日本栄養士会	公益社団法人日本栄養士会 研究教育事業部企画運営委員会 副委員長	平成26年8月～
12		まつえ市民大学運営協議会	まつえ市民大学運営協議会 委員	平成25年4月～
13		公益社団法人島根県栄養士会	公益社団法人島根県栄養士会 副会長	平成26年6月～
14		奥出雲町	奥出雲町食育推進委員会 委員長	平成27年8月～ 平成29年7月
15		雲南市	雲南市学校給食調理業務等委託候補者選定委員会委員長	平成28年6月～ 平成29年3月
16		雲南市	雲南市学校給食運営委員会委員	平成28年4月～ 平成29年3月
17		雲南市	雲南市統合学校給食センター建設設計候補者選定委員会	平成28年10月～ 平成29年3月
18		出雲市	出雲市学校給食センター第二次再編整備検討委員	平成27年10月～ 平成28年6月
19		公益社団法人島根県障害者スポーツ協会	公益社団法人島根県障害者スポーツ協会 トップアスリート強化支援事業強化支援チームメンバー	平成28年8月～
20		公益財団法人島根県体育協会	公益財団法人島根県体育協会専門委員会 委員	平成27年6月～

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱(依頼)先	役職名	期間	
21	籠橋 有紀子 (健康栄養学科准教授)	中国地域産学官連携コンソーシアム	中国地域産学官連携コンソーシアム連絡会議委員	平成25年4月1日～	
22	岸本 強 (保育学科教授)	島根県教育委員会	島根県スポーツ推進審議会会長	平成28年12月～ 平成30年11月	
23		島根県障害者スポーツ協会	障害者スポーツ支援助成金審査委員	平成23年7月～ 平成29年6月	
24		島根県体育協会	普及委員会副委員長	平成24年5月～ 平成29年4月	
25		島根県体育協会	しまね広域スポーツセンター企画運営委員会副委員長	平成17年9月～ 平成29年8月	
26		公益財団法人松江市スポーツ振興財団	理事	平成25年5月～ 平成29年4月	
27		公益財団法人ごうぎん島根文化振興財団	評議員	平成23年5月～ 平成29年4月	
28		まつえ湖南学園地域推進協議会	委員	平成27年4月～ 平成30年3月	
29		島根県バレーボール協会	統括アドバイザー	平成23年5月～ 平成29年4月	
30		中国大学バレーボール連盟	理事	平成13年5月～ 平成29年4月	
31		雲南市	身体教育医学研究所うなんん運営委員	平成28年8月～ 平成30年7月	
32		松江市	松江市総合戦略推進会議委員	平成28年8月～ 平成29年3月	
33		島根県	しまね働く女性きらめき応援会議	平成28年10月～ 平成29年9月	
34		山下 由紀恵 (保育学科教授)	松江市	松江市子育て支援ネットワーク会議委員	平成19年5月～
35			松江市	松江市心身障害児小規模療育事業検討委員	平成19年5月～
36	松江市		松江市教育委員会専門巡回相談事業相談員	平成23年8月～	
37	島根県		島根県障がい者自立支援協議会委員	平成23年4月～	
38	島根県		島根県障がい者施策審議会委員	平成23年4月～	
39	島根県		島根県子ども・子育て支援推進会議 幼保連携型認定こども園検討委員会委員長	平成25年10月～	
40	島根県教育委員会		島根県しまねのふるまい推進連絡協議会会長	平成25年7月～	
41	島根県社会福祉協議会		保育の就職支援プロジェクト会議委員	平成27年4月～	
42	公益財団法人島根県育英会		理事	平成27年6月～	
43	NPO法人日本ボーテージ協会		理事	平成25年6月～	
44	福井 一尊 (保育学科准教授)	島根県保育所(園)・幼稚園造形教育研究会	顧問	平成19年4月～	
45		しまね文化振興財団	島根県民会館名画劇場運営委員	平成21年4月～	
46		島根県社会福祉協議会	障がい者アートを活用した商取引に係る著作権等保護に関する検討委員会 委員長	平成25年9月～	
47	藤原 映久 (保育学科准教授)	松江市	松江市障がい者総合支援協議会委員	平成27年8月19日～ 平成29年3月31日	
48		雲南市	雲南市保育所保育業務委託事業者選考委員会委員	平成28年5月24日～ 平成29年5月23日	
49		社会福祉法人島根県社会福祉協議会	社会福祉法人島根県社会福祉協議会評議員	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日	
50		社会福祉法人つわぶき	社会福祉法人つわぶき評議員選任・解任委員会委員	平成29年1月4日～ 平成33年1月4日	
51		公益財団法人島根県障害者スポーツ協会	障がい者スポーツ活動支援助成金審査委員会委員	平成29年3月2日～ 平成31年3月1日	
52		岩田 英作 (総合文化学科教授)	島根県	島根県子ども読書活動推進会議委員長	平成28年6月～ 平成30年6月
53	島根県		島根県調べ学習プレゼンテーションコンテスト審査員	平成28年11月	
54	出雲市		出雲市立図書館協議会委員長	平成28年12月～ 平成29年3月	
55	松江市		松江市「小泉八雲をよむ」作詞・詩募集事業審査員	平成29年2月	
56	小泉 凡 (総合文化学科教授)		松江市観光振興部観光施設課	小泉八雲記念館館長	平成28年4月～ 平成29年3月
57		公益財団法人エネルギア・文化スポーツ財団	公益財団法人エネルギア・文化スポーツ財団理事	平成27年5月～ 平成29年5月	
58		公益財団法人池田記念スポーツ文化財団	公益財団法人池田記念スポーツ文化財団理事	平成27年6月～ 平成29年6月	
59		島根県立美術館	島根県立美術館協議会委員	平成25年5月～ 平成28年5月	
60		松江市観光振興部国際観光課	アイリッシュ・フェスティバルin松江実行委員会委員長	平成28年10月～ 平成29年3月	
61	小玉 容子 (総合文化学科教授)	松江市	松江市立女子高等学校魅力化検討プロジェクト	平成28年7月～ 平成29年3月	
62	マユー あき(総合文化学科教授)	島根県	島根県個人情報保護審査会委員	平成26年4月～	
63		島根県	島根県情報公開審査会委員	平成26年4月～	

2 審議会委員等

NO.	教員名	委嘱（依頼）先	役職名	期間
64	工藤 泰子（総合文化学科准教授）	松江市	松江歴史館運営協議会委員	平成26年11月～
65		松江市	松江市立女子高等学校学校評議員	平成27年5月～
66		松江市	松江市総合計画審議会委員	平成28年4月～
67	藤居 由香（総合文化学科准教授）	島根県	しまね景観賞審査委員会委員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
68		島根県	住宅政策懇談会委員	平成28年7月6日～ 平成29年3月31日
69		島根県	消費生活審議会委員	平成28年7月27日～ 平成29年3月31日
70		島根県	新大橋景観検討委員会委員	平成28年12月26日～ 平成29年3月31日
71		松江市	都市計画審議会会長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
72		松江市	歴史まちづくり推進協議会委員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日
73		島根県建築住宅センター	一般財団法人島根県建築住宅センター評議員	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日

平成28年度 地域連携（貢献）活動の取組状況

3 その他地域連携（貢献）活動等

NO.	教員名	相手方	内容等	日付（期間）
1	名和田 清子（健康栄養学科教授）	島根県牛乳普及協会	平成28年度牛乳・乳製品料理コンクール島根県大会審査委員長	平成28年9月～ 10月
2	名和田 清子（健康栄養学科教授）	大田市	梅レシピコンテスト 審査委員	平成29年2月17日
3	岸本 強（保育学科教授）	大田市保育研究会	大田市保育研究会研究部の研究指導助言	平成27年度～ 現在